目次

巻　頭　言

福井県英語研究会の存在意義を考える
…… 福井県英語研究会会長 …… 松　田　新　一 …… 1

平成29年度福井県英語研究会役員 …… 3

福井県英語研究会の沿革 …… 4

平成28年度事業・決算報告

事業報告・会計決算報告・監査報告 …… 7

平成29年度事業計画

1）福井県英語研究会事務局 …… 事務局長 …… 中　村　珠　美 …… 13
2）県中教研英語部会 …… 事務局長 …… 渡　辺　桂　子 …… 18
3）県中教研英語部会郡市部会 …… 各部会長 …… 19
4）企　画　部 …… 部　長 …… 西　口　佳　光 …… 27
5）放送テスト部 …… 部　長 …… 加　藤　修 …… 28
6）広　報　部 …… 部　長 …… 稲　葉　芳　明 …… 31
7）研　究　部 …… 部　長 …… 辻　智　生 …… 32

特別企画

・新入会員に聞く …… 37
・BOOKSHELF …… 49

資料

・岩崎賞受賞者およびタイトル一覧 …… 59
・第36回岩崎賞論文募集要項 …… 62
・英研総会講演者一覧 …… 63
・「会報」第76号 原稿募集 …… 67
・英語研究会歴代役員一覧 …… 68

巻　頭　言

福井県英語研究会の存在意義を考える

福井県英語研究会会長
松　田　新　一

ここ数年、県が積極的に英語教育を推進していることもあり、若い英語科教員がどんどん増えている。数年前までは、中高合わせても一桁台の採用人数が続いていたが、２年前からは２０人を超える人数となっている。互いに磨き合い、高め合う仲間が多いのはとてもけっこうなことであり、大いに力を発揮してほしいと思う。そんな中、ふと思うのが、若い世代の英語科教員にとって福井県英語研究会（県英研）はどのように映っているのか、どのような存在であるのかということである。県英研の中のどこかの部に所属している人は、その存在について意識できている部分があるとは思うが、かなり多くの人はどの部にも所属しておらず、学校で「放送テスト」や「リーディングテスト」「Let's Read」等を使っていたり、英語弁論大会に生徒が出場していたりすることは知っていても、それらが県英研という自分たち自身の組織が行っていることはどの程度意識されているのだろうか。

今さらながらであるが、福井県英語研究会は昭和３４年（1959年）に誕生し、６０年近い歴史を持っている。詳細についてはこの後のページにある「福井県英語研究会の沿革」を見ていただくとして、県英研は高校と中学校の全英語科教員が会員となっていて、しかも公立私立関係なく会員となって作り上げているという、全国でも他に例のない組織であり、今、国を挙げて英語教育が推進されてきているこの時代にあって、全国から大きな注目を集め、また全国に誇れる組織である。県外で行われる英語教育関係の会議や研究会に出席して、この県英研の組織のことを話すと、以前でもそうであったが今でも、いや今だからこそ、必ず驚きの声が上がる。そして、ずっと中学校教員である私が研究部に所属し、高校の教員と一緒になって「リーディングテスト」や「Let's Read」を作ってきたことを付け加えると、どうやって中高が一緒になった組織を作ることができたのか、なぜ中高が協力できるのか（！）などと質問を受ける。

私自身、本当に県英研に育てていただいたと思う。曲がりなりにも英語科教員の端くれとして何とかやれてこれたのも、県英研のおかげである。県英研の研究部に所属し、リーディングテスト作成に関わったが、自分が持って行った英文素材（長文）の原案の２行が残ればまだいい方で、すべてダメでボツになったことが何度あったことか。先輩の先生方から、ダメ出しをされる中で、英文素材の持つメッセージの重要性、問題のための英文素材ではなく他の人に伝えるための英文であること等々、一からたたき込まれたと言っても過言ではない。さらに、その問題検討会の中で、英語授業の進め方やポイントについて雑談かたがた教えていただいたり、悩みにアドバイスをいただい

たり、時には生意気に中学校では英語でのコミュニケーションを大事にしているので、高校でもその流れをしっかり受け止めてほしいなどと伝えたりと、本当に充実していた。

わざわざこの紙面を借りて、自分の昔の思い出を振り返ったのは、みなさんに今一度、県英研という私たち自身の組織について意識していただきたかったからである。岩崎達雄先生を中心とする先輩方が、福井県の英語教育の１０年後、２０年後、いや100年後を見据えられて作られたこの県英研は、しっかりと福井県の英語教育界に根付き、大きな成果を上げてきている。この３月に新学習指導要領が告示され、中学校外国語には「事実や自分の考え、気持ちなどを整理し」という文言がいたるところに見られるし、「授業を実際のコミュニケーションの場面とするために、授業は英語で」という文言も初めて登場しているが、こういった内容は、これまでずっと県英研が主張し実践してきたことである。県英研を中心として福井県が推進してきた内容が、国の方針に取り入れられるということが今回だけでなく過去に何度も起きていることを考えると、私たち県英研の存在の大きさを再認識せざるを得ない。是非、皆さん一人一人ももう一度県英研の存在意義について考えていただけたらと思う。

次に、「二宮秀夫基金」の創設についてお伝えしたい。二宮秀夫先生が昨年２月に急死されたことは皆さんご存知のとおりであるが、二宮先生は本県の英語教育の発展に大きな功績を残されており、中学校教諭、県教委指導主事、県教委参事を経て、亡くなられた時には福井大学教職大学院の教授としてご活躍でした。この度、二宮秀夫先生のご遺族から、県英研に今までとてもお世話になったということで、そのお礼として200万円の寄付をいただいた。県英研の活動の支援にということでしたので、新たに基金を創設して「二宮秀夫基金」とし、毎年、研究の支援・補助に少しずつ支出することにしたので、ここにお知らせするとともに、ご遺族に厚く感謝申し上げたい。

最後に、このように大きな成果を上げてきて、また新たな基金が創設されたにもかかわらず、県英研は、今、財政面で大きな危機に直面している。生徒数減少による予想以上の収入減と、消費税引き上げ等による予想以上の支出増により、危機的状況になっている。後のページに出てくる今年度の予算案を見てもらうとわかるように、どの部も軒並み大きく減額した予算となっている。しかしながら、これでも危機的状況は脱しておらず、繰越金に大きく依存している状態である。このような状況であることを、皆さんによくご理解いただき、各部での経費節減に努め、場合によっては事業の縮小も検討いただき、何とか正常な運営状態となるようにお願いしたい。この伝統ある福井県英語研究会を絶対に存続させていかなければならないのである。

平成29年度福井県英語研究会役員

			（勤務先電話番号）
会長	松田新一	（進明中学校長）	（０７７６）２０－５１２８
副会長	勝木博一	（嶺南東特別支援学校長）	（０７７０）４５－１２５５
〃	水谷善長	（武生第三中学校長）	（０７７８）２３－１４３３
参与	県立学校英語科校長		
〃	県中教研英語部会郡市部長		
企画部長	西口佳光	（丹生高等学校）	（０７７８）３４－００２７
同副部長	山口隆子	（丹生高等学校）	（０７７８）３４－００２７
放送テスト部長	加藤修	（三国中学校）	（０７７６）８２－１１７７
同副部長	伊藤美智子	（敦賀高等学校）	（０７７０）２５－１５２１
〃	野崎恵美	（社中学校）	（０７７６）３５－８３１０
広報部長	稲葉芳明	（大野高等学校）	（０７７９）６６－３４１１
同副部長	鈴木秀人	（羽水高等学校）	（０７７６）３６－１６７８
研究部長	辻智生	（敦賀高等学校）	（０７７０）２５－１５２１
同副部長	村昭信	（金津高等学校）	（０７７６）７３－１２５５
〃	水木毅	（武生東高等学校）	（０７７８）２２－２２５３
監事	三田村弘美	（丹生高等学校）	（０７７８）３４－００２７
〃	北川一	（金津高等学校）	（０７７６）７３－１２５５
特別評議員	岩本公信	（教育庁高校教育課）	（０７７６）２０－０５７０
〃	上田外史彦	（教育庁義務教育課）	（０７７６）２０－０６６７
〃	澤田則義	（教育総合研究所）	（０７７６）５８－２１５０
事務局長	中村珠美	（福井商業高等学校）	（０７７６）２４－５１８０
庶務	伊藤仁美	（福井商業高等学校）	（０７７６）２４－５１８０
会計	石田洋志	（福井商業高等学校）	（０７７６）２４－５１８０

福井県英語研究会の沿革

福井県英語研究会は、昭和３４年（1959年）４月１日に発足した。

学習者に Living English を習得させることを目標にして、自主的、自発的研究のグループが創設されたことを始まりとする。事務局校は武生第一中学校におかれ、発足当時の会員数は296名（中学校188名＋高校108名）、会費は年間100円であった。

その後、組織づくりが進められ、多くの人の汗と創意工夫により、ますます洗練され、充実し、中高一体の全県組織として発展を遂げている。平成２１年（2009年）には創立五十周年を迎え、３月に『五十年史』を発刊した。平成２９年度現在の会員数は５８７名である。

本会は、中学校と高校の英語教員全員が会員となる全国でも類を見ない組織である。事務局（事務局長、会計、庶務）および企画部（２０名）・放送テスト部（３２名）・広報部（７名）・研究部（３３名）の四部が中高連携協力して活動している。また、秋の英語教育研究大会では中学校と高校とが隔年で発表し、中高どちらかが担当する大会で双方から教員が多数集う。

〔企　画　部〕

企画部は英語弁論大会、英作文コンテスト、英語セミナーを企画、運営する。中学校英語弁論大会は全国大会出場者を、高校英語弁論大会は東海北陸ブロック大会出場者を選考する。英作文コンテストは高校生対象で、部門別・学年別に最優秀賞作品、優秀賞作品を選考する。高校英語セミナーは、コミュニケーション活動の場を生徒に与える。各地区の中教研主催の中学校英語セミナーを共催する。

〔放送テスト部〕

放送テスト部は中学・高校生用のリスニングテストを作成している。五十余年の歴史があり、発足当時はテープレコーダーも少ない時代だったので、NHK 福井放送局のラジオでテストを流したことが、部会名の由来である。現在、県内ほぼすべての中学校で採用されており、高校での採用数も5,000名を超える。中学校では各学年用を、高校では主に１年生の英語表現Ｉの評価用として、それぞれ年３回発行している。

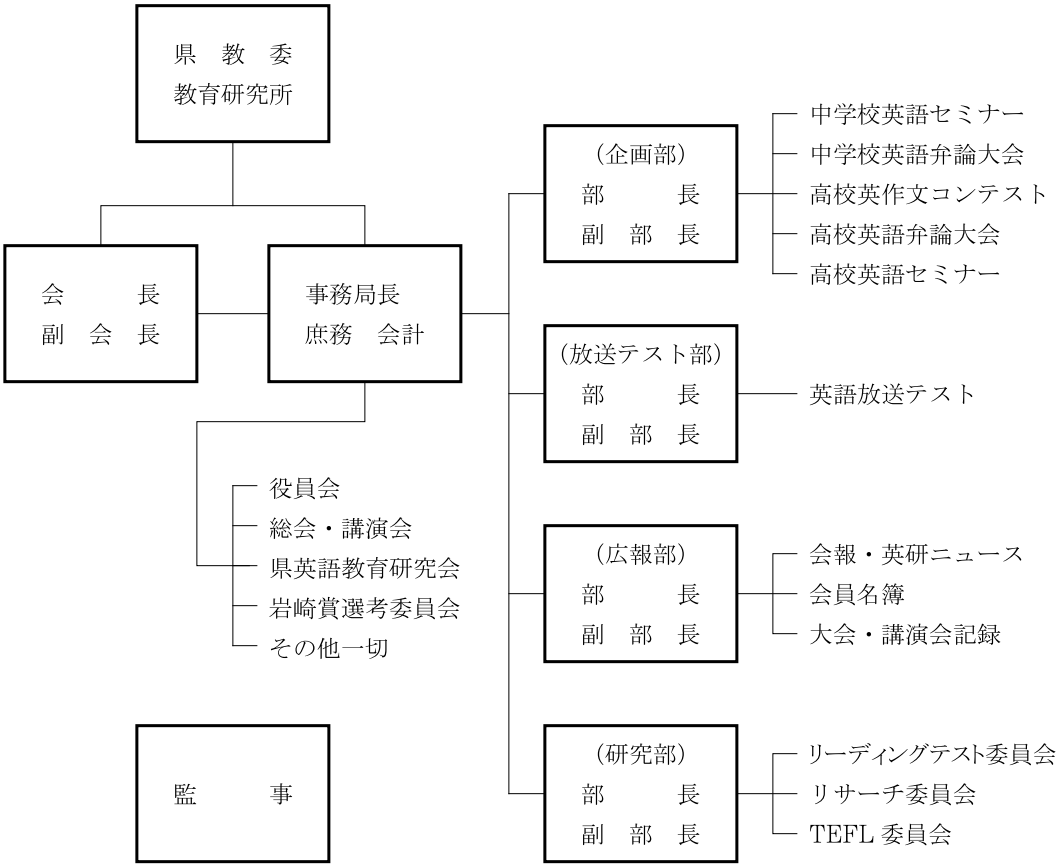
〔広　報　部〕

県英語研究会活動の広汎な活動を広報すると同時に記録することが、主たる活動である。具体的には、１　「会員名簿」の発行（６月）、２　「英研ニュース」の発行（９月）、３　「英研会報」の発行（３月）、４　研究大会・講演会等の記録、５　ホームページの管理――以上５つが活動の柱である。

〔研　究　部〕

リーディングテスト委員会、TEFL 委員会、リサーチ委員会の３つの委員会があり、英文読解教材の作成や授業の実践報告を行う。当部の教材には中学生対象のバラテスト「リーディングテスト」、冊子「LET'S READ」、高校生用のバラテスト「Reading For Message」、中高橋渡し教材「Bridging」がある。毎年発行する「研究部合本」には、これらの教材とともに、授業実践報告も掲載する。

福 井 県 英 語 研 究 会（機構）


県　教　委
教育研究所
会　　長
副　会　長
事務局長
庶務　会計
役員会
総会・講演会
県英語教育研究会
岩崎賞選考委員会
その他一切
監　　事
（企画部）
部　　長
副　部　長
中学校英語セミナー
中学校英語弁論大会
高校英作文コンテスト
高校英語弁論大会
高校英語セミナー
（放送テスト部）
部　　長
副　部　長
英語放送テスト
（広報部）
部　　長
副　部　長
会報・英研ニュース
会員名簿
大会・講演会記録
（研究部）
部　　長
副　部　長
リーディングテスト委員会
リサーチ委員会
TEFL 委員会

平成28年度事業報告

担　当	期　日	行　事　内　容	会　場
県英研事務局	５月６日（金）	県英研平成27年度会計監査および第１回役員会	国際交流会館
	６月10日（金）	県英研総会および講演会　講師：阿野　幸一氏	国際交流会館
	11月４日（金）	福井県英語教育研究大会　講師：山岡　憲史氏	藤島高等学校
	11月11,12日（金・土）	全英連山口大会	山口市民会館　他
	12月25日（金）	全英連東海北陸地区英語教育協議会	静岡県
	12月28日（水）	第35回「岩崎賞」研究論文選考委員会	福井商業高等学校
	２月21日（火）	県英研第２回役員会	国際交流会館
企画部	９月24日（土）	第55回高等学校英作文コンテスト	各校開催
	１０月１日（土）	第56回高等学校英語弁論大会	国際交流会館
	１０月５日（水）	第59回中学校英語弁論大会	鯖江市文化センター
放送テスト部	５月13日（金）	英語放送テストA・B・C　第１回問題発送	
	11月４日（金）	英語放送テストA・B・C・D　第２回問題発送	
	１月６日（金）	英語放送テストA・B・C　第３回問題発送	
広報部	６月10日（金）	「会員名簿」発行（650部）	国際交流会館
	６月10日　（金）	英研総会および講演会記録	国際交流会館
	９月中旬	「英研ニュース」No.39発行（650部）	
	11月４日（金）	福井県英語教育研究大会記録	藤島高等学校
	３月中旬	「会報」第75号発行（650部）	
	随　時	県英研ホームページ更新	
研究部	５月中旬	リーディングテストA・B・C　第１・２回発送	
	５月中旬	Let's Read　A・B・C発行	
	６月中旬	Let's Read for Message 発行	
	７月上旬	Reading for Message　第１回発送	
	９月中旬	リーディングテストA・B・C　第３・４回発送	
	10月下旬	Reading for Message　第２回発送	
	12月上旬	Reading for Message　第３回発送	
	１月中旬	リーディングテストA・B・C　第５・６回発送	
	１月中旬	研究部合本発行	
	３月上旬	Bridging 発送	

県中教研	６月17日（金）	第１回中教研英語部会郡市部長会	ユーアイふくい
	８月10日（水）	中学校教育研究集会	敦賀市松陵中学校
	８月中旬	中学校英語セミナー	県内５地区
	10月26日（水）	第２回中教研英語部会郡市部長会	ユーアイふくい
	１月27日（金）	第３回中教研英語部会郡市部長会	ユーアイふくい
県高教研	５月27日（金）	高教研英語部会理事会	福井商業高等学校
	６月10日（金）	高教研英語部会総会	国際交流会館
	８月23日（火）	福井県高等学校英語教育研究大会	アオッサ県民ホール
	11月４日（金）	福井県英語教育研究大会	藤島高等学校
県高文連	９月24日（土）	第５５回高校英作文コンテスト（共催）	各高校
	10月１日（土）	第５６回高校英語弁論大会（共催）	国際交流会館

平成28年度会計決算報告

一般会計　決算報告

〈収　　入〉　　（単位：円）

科　　目	28年度予算	28年度決算	増　減	備　　考
前年度繰越金	4,341,710	4,341,710	0	総会、研究大会諸経費
放送テスト	6,350,000	6,346,630	3,370	放送テストA，B，C ￥250×24,407 放送テストD　￥170× 3,061
リーディングテスト	6,700,000	6,705,460	△5,460	リーディングテスト　A，B，C ￥300×3,537 Let's Read A　￥400×2,305 Let's Read B，C　￥500×8,188 Reading for Message（バラ） ￥250×1,478 Reading for Message（冊子） ￥430×602
Bridging	550,000	608,550	△58,550	Bridging　￥150×4,057
雑収入	300	64,120	63,820	利子、国税還付金、 放送テスト27年度返金一部
合　　計	17,942,010	18,066,470	△124,460	

〈支　　出〉　　（単位：円）

科　　目	28年度予算	28年度決算	残　高	備　　考
企画部	1,400,000	739,210	660,790	企画部運営費
放送テスト部	2,400,000	2,399,182	818	放送テスト部運営費
広報部	1,100,000	666,965	433,035	広報部運営費
研究部	2,200,000	1,794,170	405,830	研究部運営費
Hテスト印刷発送費	2,500,000	2,977,844	△477,844	発送費および振込手数料
Rテスト印刷発送費	5,000,000	5,186,482	△186,482	発送費および振込手数料 研究部合本650冊（430,272円）
Bridging 印刷発送費	550,000	584,847	△34,847	支払および振込手数料
事務局	1,600,000	650,624	949,376	事務局運営費
税金	60,000	54,100	5,900	消費税、税理士申告手続き報酬
予備費	1,135,380	6,048	1,129,332	各部への振込手数料
支出計	17,945,380	15,059,472	3,006,998	
次年度繰越金		3,007,007		

収入 ￥18,066,470 － 支出 ￥15,059,472 ＝ ￥3,007,007 を次年度へ繰り越し

事務局会計　決算報告

（単位：円）

科　　目	28年度予算	28年度決算	増　減	備　　考
研究大会費	700,000	191,119	508,881	総会、研究大会諸経費
役員行動費	80,000	87,657	△7,657	役員会旅費
事務局行動費	20,000	0	20,000	
印刷費	50,000	0	50,000	
会議費	50,000	19,671	30,329	役員会会場費
全英連関係	200,000	239,450	△39,450	参加費、旅費、宿泊費
通信費	100,000	47,891	52,109	郵送料
消耗品費	40,000	18,506	21,494	通信用封筒、事務局整理ファイル、送付用ラベル
振替費	40,000	33,370	6,630	口座徴収料金 （振込手数料事務局負担）
予備費	320,000	12,960	307,040	英研会報　高教研支払不足分
合計	1,600,000	650,624	949,376	

予算￥1,600,000－決算￥650,624＝￥949,376 に、利子59円を足して￥949,435を一般会計へ返金

特別会計　決算報告

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	27年度決算
前年度繰越金	4,991,817	4,990,667
預金利息	639	1,150
計	4,992,456	4,991,817

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	27年度決算
計		0

収入 ￥4,992,456 － 支出 ￥0 ＝ ￥4,992,456 を次年度へ繰り越し

岩崎賞会計　決算報告

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	27年度決算
前年度繰越金	2,666,415	2,665,978
預金利息	51	437
計	2,666,466	2,666,415

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	27年度決算
論文賞金	200,000	
楯・賞状代	7,000	
計	207,000	

収入 ￥2,666,466 － 支出 ￥207,000 ＝ ￥2,459,466 を次年度へ繰り越し

齋藤彰男基金　決算報告

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	27年度決算
前年度繰越金	673,946	673,835
預金利息	13	111
計	673,959	673,946

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	27年度決算
中学校英語弁論楯代	0	0
計	0	0

収入 ￥673,959 － 支出 ￥0 ＝ ￥673,959 を次年度へ繰り越し

英研会費会計　決算報告

〈収　　入〉

科　目	28年度決算	備　考
前年度繰越金	1,081	
会　　費	255,000	500円×510名
計	256,081	

〈支　　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	備　考
会費払込料	12,640	
会員名簿作成	141,804	
講師謝礼	44,084	
講師諸経費	12,338	旅費･宿泊費
英研ニュース・会報	40,000	
計	250,866	
次年度繰越金	5,215	

平成28年度会計監査報告

福井県国際交流会館において平成２８度福井県英語研究会の一般会計、事務局会計、特別会計、岩崎賞会計、斉藤彰男基金会計、各部会計及び英研会員会計の監査をいたしましたところ、記帳は正確であり、会計処理も適切であり、証拠書類も整然と保存され、なんら問題のないことを報告いたします。

平成２９年４月２８日（金）

福井県英語研究会監事

福井県立丹生高等学校教諭　　三　田　村　弘　美

福井県立金津高等学校教諭　　北　　川　　一

平成29年度事業計画

福井県英語研究会事務局

事務局長　　中　村　珠　美（福井商業高校）

日頃より福井県英語研究会の諸活動に対し御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて平成２９年度は、松田新一先生（進明中学校長）が会長職を務められます。勝木博一先生（嶺南東特別支援学校長）は副会長職を引き続き務められます。また、水谷善長先生（武生第三中学校長）が副会長職を新たに務められます。事務局は、福井商業高等学校が昨年に引き続き担当いたします。どうぞ宜しくお願い致します。

それでは、４月以降、これまでの事務局関係の行事等を報告致します。

４月２８日（金）

平成２８年度の会計監査および平成２９年度第１回役員会を福井県国際交流会館で開催し、総会に提案すべき議事の審議を致しました。

５月２６日（金）

高教研英語部会理事会を福井商業高校で開催し、平成２９年度の事業計画・予算、高教研大会の発表校、福井県英語教育研究大会の高校の担当校等を審議致しました。

６月９日（金）

平成２９年度高教研英語部会総会および福井県英語研究会総会を福井県国際交流会館地下多目的ホールで開催しました。全ての議案について御承認をいただきました。

英研総会の席上、岩崎賞が稲葉芳明先生（大野高校教諭）、三仙真也先生（藤島高校教諭）に贈呈されました。また、福井県英語研究会の発展に永年貢献された、広瀬泰司先生（尚徳中学校教頭）に感謝状が贈られました。

総会後の講演会では、講師に神奈川大学 外国語学部 国際文化交流学科教授の大島希巳江先生をお招きし、「英語落語の授業への活用法」と題して御講演をいただきました。大島先生が英語落語を落語家の方々に教える際の苦労話、また落語家の方々が英語落語を通して英語を使えるレベルまで上達させている話を伺いました。先生は世界各地に講演に行き、文化の違い故に観客の反応が全く違うことや、落語の内容もその国の文化によって配慮する必要があるなど興味深い内容でした。また、何か伝えたいことがあって英語を話すのであり、英語を用いて何かを話す楽しさを生徒たちに教えてほしいし、英語落語はそのひとつの手段になり得るという示唆を頂きました。最後に大島先生が、高座に座られ、実際に英語落語を演じて下さいました。英語落語のストーリーの楽しさ、先生の顔の表情や表現力に圧倒されつつ、会場は楽しい笑いでいっぱいでした。

平成29年度事業計画

担　当	期　日	行　事　内　容	会　場
県　英　研 事　務　局	４月28日（金） ６月９日（金） 11月22日（水） 11月22, 23日 （水･木） 12月25日（月） 12月27日（水） ２月20日（火）	県英研平成29年度会計監査および第１回役員会 県英研総会および講演会　講師：大島希巳江氏 福井県英語教育研究大会　講師：平木　裕　氏 全英連新潟大会 全英連東海北陸地区英語教育協議会 第36回「岩崎賞」研究論文選考委員会 県英研第２回役員会	国際交流会館 国際交流会館 朝日中学校 リュウトピア　他 石川県 福井商業高校 国際交流会館
企　画　部	９月23日（土） ９月30日（土） 10月４日（水）	第56回高等学校英作文コンテスト 第57回高等学校英語弁論大会 第60回中学校英語弁論大会	各校開催 国際交流会館 鯖江市文化センター
放送テスト部	５月12日（金） 11月７日（火） １月９日（火）	英語放送テストＡ・Ｂ・Ｃ　第１回問題発送 英語放送テストＡ・Ｂ・Ｃ　第２回問題発送 英語放送テストＡ・Ｂ・Ｃ　第３回問題発送	
広　報　部	７月中旬 ６月９日（金） ９月中旬 11月22日（水） ３月中旬 随　時	「会員名簿」発行（６５０部） 英研総会および講演会記録 「英研ニュース」No.40発行（６５０部） 福井県英語教育研究大会記録 「会報」第７６号発行（６５０部） 県英研ホームページ更新	国際交流会館 国際交流会館 朝日中学校
研　究　部	５月中旬 ５月中旬 ６月中旬 ７月上旬 ９月中旬 10月下旬 12月上旬 １月中旬 １月中旬 ３月上旬	リーディングテストA･B･C　第１・２回発送 Let's Read　Ａ・Ｂ・Ｃ　発行 Let's Read for Message 発行 Reading for Message　第１回発送 リーディングテストA･B･C　第３・４回発送 Reading for Message　第２回発送 Reading for Message　第３回発送 リーディングテストA･B･C　第５・６回発送 研究部合本発行 Bridging 発送	

県 中 教 研	６月上旬 ８月10日（木） ８月中旬 10月上旬 １月下旬	第１回中教研英語部会郡市部長会 中学校教育研究集会 中学校英語セミナー 第２回中教研英語部会郡市部長会 第３回中教研英語部会郡市部長会	ユーアイふくい 福井県立大学等 県内５地区 ユーアイふくい ユーアイふくい
県 高 教 研	５月26日（金） ６月９日（金） ８月23日（水） 11月22日（水）	高教研英語部会理事会 高教研英語部会総会 福井県高等学校英語教育研究大会 福井県英語教育研究大会	福井商業高校 国際交流会館 アオッサ県民ホール 朝日中学校
県 高 文 連	９月23日（土） ９月30日（土）	第５６回高校英作文コンテスト（共催） 第５７回高校英語弁論大会（共催）	各高校 国際交流会館

平成29年度会計予算

一般会計　予算

〈収　　入〉　　（単位：円）

科　　目	29年度予算	28年度予算	増　減	備　　考　（単価）
前年度繰越金	3,007,007	4,341,710	△1,334,703	
放送テスト	5,930,000	635,000	△420,000	放送テストA　250 放送テストB　250 放送テストC　250
リーディングテスト	5,880,000	6,700,000	△820,000	リーディングテストA　300 リーディングテストB　300 リーディングテストC　300 ＲＦＭ（バラ）　250 ＲＦＭ（冊子）　430 Let's Read A　400 Let's Read B　500 Let's Read C　500
Bridging	610,000	550,000	60,000	Bridging　150
雑　収　入	60,000	300	59,700	利子、国税還付金
合　　計	15,487,007	17,942,010	△2,455,003	

〈支　　出〉

科　　目	29年度予算	28年度予算	増　減	備　　考
企　画　部	800,000	1,400,000	△600,000	企画部運営費
放送テスト部	1,960,000	2,400,000	△440,000	放送テスト部運営費
広　報　部	800,000	1,100,000	△300,000	広報部運営費
研　究　部	1,700,000	2,200,000	△500,000	研究部運営費
Ｈテスト印刷発送費	2,300,000	2,500,000	△200,000	放送テスト３回分印刷費
Ｒテスト印刷発送費	5,000,000	5,000,000	0	リーディングテスト３回分、ＲＦＭ等印刷費
Bridging 印刷発送費	550,000	550,000	0	Bridging 教材印刷費
事　務　局	1,000,000	1,600,000	△600,000	事務局運営費
税　　金	55,000	60,000	△5,000	消費税、税理士申告手続き報酬
予　備　費	1,322,007	1,132,010	189,997	
支　出　計	15,487,007	17,942,010	△2,455,003	

事務局会計　予算

（単位：円）

科　　目	29年度予算	28年度予算	増　減	備　　考
研究大会費	280,000	700,000	△420,000	総会、研究大会諸経費
役員行動費	70,000	80,000	△10,000	
事務局行動費	10,000	20,000	△10,000	
印刷費	10,000	50,000	△40,000	
会議費	10,000	50,000	△40,000	役員会会場費
全英連関係	180,000	200,000	△20,000	参加費、旅費、宿泊費
通信費	50,000	100,000	△50,000	郵送料
消耗品費	30,000	40,000	△10,000	通信用封筒、事務局整理ファイル、送付用ラベル
振替費	40,000	40,000	0	口座徴収料金 （振込手数料事務局負担）
特別委員会経費	300,000	0	300,000	英研会報　高教研支払不足分
予備費	20,000	320,000	△300,000	
合計	1,000,000	1,600,000	△600,000	

特別会計　予算

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	29年度予算
前年度繰越金	4,991,817	4,992,456
預金利息	639	700
計	4,992,456	4,993,156

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	29年度予算
	0	0
計	0	0
次年度繰越金	4,992,456	4,993,156

岩崎賞会計　予算

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	29年度予算
前年度繰越金	2,666,415	2,459,466
預金利息	51	70
計	2,666,466	2,459,536

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	29年度予算
論文賞金・楯代	207,000	110,000
予備費	0	2,349,536
計	0	2,459,536
次年度繰越金	2,459,466	

齋藤彰男基金　予算

〈収　入〉

科　　目	28年度決算	29年度予算
前年度繰越金	673,946	673,959
預金利息	13	50
計	673,959	674,009

〈支　出〉　（単位：円）

科　　目	28年度決算	29年度予算
中学校英語弁論楯代	0	50,000
予備費	0	624,009
計	0	674,009
次年度繰越金	673,959	

二宮秀夫基金　予算

〈収　　入〉

科　　目	29年度予算
新　　規	2,000,000
預　金　利　息	0
計	2,000,000

〈支　　出〉　（単位：円）

科　　目	29年度予算
	50,000
予　　備　　費	1,950,000
計	2,000,000
次 年 度 繰 越 金	1,950,000

英研会費会計　予算

〈収　　入〉

科　目	29年度予算	備　考
前年度繰越金	5,215	
会　　費	260,000	500円×520名
計	265,215	

〈支　　出〉　（単位：円）

科　　目	29年度予算	備　考
会　費　払　込　料	13,000	
会 員 名 簿 作 成	145,000	
講　師　謝　礼	20,000	
講　師　諸　経　費	10,000	旅費、宿泊費
英研ニュース・会報	70,000	
予　　備　　費	7,215	
計	265,215	

県中教研英語部会

事務局長　　**渡　辺　桂　子**（進明中学校）

県中教研英語部会　平成29年度活動計画

英語部会は、「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価の工夫・改善」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組んでいきます。以下が本年度の活動計画です。

［県中教研関係］

１　６月１３日（火）　第１回英語部会郡市部長研究会（ユーアイ・ふくい）
　・平成２８度事業報告ならびに平成２９年度事業計画について
　・平成２９年度県中学校教育課程研究集会、中学校英語セミナーについて
　・県英語教育研究大会（鯖丹大会）について
　・各ブロック間の情報交換

２　８月１０日（木）　福井県中学校教育研究集会（福井県立大学）
　・発表校　福井・坂井・奥越の各ブロックの学校

３　８月９日（水）１０日（木）
　平成２９年度第４１回東海北陸公立中学校英語研究会三重大会（四日市市総合会館）

４　１０月１８日（水）　第２回英語部会郡市部長研究会（ユーアイふくい）
　・平成２９年度事業経過報告及び平成３０年度研究主題の検討
　・県英語教育研究大会（鯖丹大会）について
　・各郡市の取り組み（英語セミナー、小中連携など）

５　　１月　　日（　）　第３回英語部会郡市部長研究会（ユーアイふくい）
　・平成２９年度事業報告ならびに平成３０年度研究主題と事業計画について
　・各郡市における活動状況と課題

［県英研関係］

１　６月９日（金）　県英語研究会総会、講演会（県国際交流会館）
　・平成２８年度事業報告ならびに平成２９年度事業計画について
　・講演会　大島　希巳江氏（神奈川大学教授）

２　１０月　４日（水）　第６０回県中学校英語弁論大会（鯖江市文化センター）

３　１１月２２日（水）　県英語教育研究大会（鯖丹大会）　（朝日中学校）
　・授業者　　内藤　元彦　教諭　（朝日中学校）
　　Fiona Kelemencky　ALT
　・記念講演　平木　裕　氏　（文部科学省初等中等局　視学官）

４　１１月２２日（水）２３日（木）
　全国英語教育研究大会　新潟大会

県中教研英語部会郡市部会　　各部会長

平成29年度県中教研英語部会郡市部長名及び活動計画

部	部長名	活　動　計　画
福井市部	松田　新一 （進明中）	４／14　第１回中教研福井ブロック英語部会主任会〔至民中〕 ６／21　福井ブロック中学校教育研究集会（社中：鋸谷　卓磨　教諭） （司会：棗中　記録：進明中）〔進明中〕 ７／11　前期福井ブロック内授業研究会（高嶋　和代　教諭）〔安居中〕 8/2～3　福井市英語サマーキャンプ（事務局：明道中）〔福井市少年自然の家〕 ８／10　福井県中学校教育研究集会（発表：社中）　〔福井県立大学〕 8月~3月　授業づくり委員会（５回程度）〔明道中〕 11／22　福井県英語教育研究大会（鯖丹大会）〔朝日中学校〕 ２月　後期福井ブロック内授業研究会（　教諭）〔清水中〕 ２月　第２回中教研福井ブロック英語部会主任会
吉田郡部	稲葉　雄治 （松岡中）	吉田郡永平寺町の中学校は３校で、会員数は６名である。吉田郡では毎年、各中学校の指導主事訪問日の英語の授業を他校の教員も参観し、お互いに意見交換をしている。今年も、松岡中学校と永平寺中学校での実施を予定している。また、各中学校校区の小学校での英語の授業も参観し、小中連携を進めている。 永平寺町では、海外派遣事業として３月にアメリカのシアトルに中学生を派遣している。ホームステイをしながら、現地の学校で授業を受ける。また、ボーイング社やワシントン大学などの施設を訪問する。３中学校から選抜された15名程度の生徒が参加する予定である。事前研修会については、福井大学の教員や学生、３校の英語科教員が協力し英語の研修を行う予定である。 これ以外にも授業研究会を行うとともに、３校で情報交換を密にし、各校生徒の英語力向上を目指し、研究を進めていきたいと考えている。
坂井ブロック（坂井市・あわら市）	佐藤　昌康 （春江中）	坂井地区中教研英語部会では、英語教育の変化への対応、教員相互の情報交換、生徒の英語力向上を図るために、以下のような活動を計画・実施しています。また、小学校での英語の教科化に備え、７つの各中学校区において小中連携事業の中で英語部会を設けるなど、連携を強化しています。 今年度より、平成３１年度福井県英語研究大会坂井ブロック大会に向けて、定期的に授業研究委員会を開催していく予定をしています。 ４／10　坂井地区中教研総会英語部会（春江中学校） ５／９　第１回英語科主任会（春江中学校） …　年３回開催予定（10月、２月を予定）

部	部長名	活　動　計　画
坂井ブロック（坂井市・あわら市）	佐藤　昌康 （春江中）	５／24　英語セミナー委員会（丸岡中学校） ６／22　英語セミナー委員会（丸岡中学校） ６／28　坂井地区中教研集会（春江中学校） …　発表者　丸岡南中学校　若林京子　教諭 ７／11　英語セミナー委員会（丸岡中学校） ７／28　坂井地区英語セミナー（高椋コミュニティーセンター） …　事務局　丸岡中学校 ８／10　県中学校教育研究集会（県立大学） 12月　坂井地区英語科特別研究会（坂井中学校）…　当番校　坂井中学校
大野市部	久保　俊岳 （陽明中）	○研究主題 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価の工夫・改善 ○第１回大野市学校教育研究会（学びの里「めいりん」）　４月13日 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換 ○第２回大野市学校教育研究会（尚徳中学校）　５月９日 分科会長会、分科会予算配分等 ○中学校教育課程奥越ブロック集会（勝山中部中学校）　６月16日 研究授業および授業研究会を通した研究主題の追及 ○夏季英語セミナー運営研究会（陽明中学校）　６月21日 夏季英語セミナーの企画運営全般についての協議 ○奥越中学校夏季英語セミナー（勝山市体育館ジオアリーナ）　７月25日 奥越地区の中学校全学年を対象にした英語活動の実施 ○第３回大野市学校教育研究会（開成中学校）　８月１日 県中学校教育研究集会のプレ発表（陽明中学校　細川教諭） ○県中学校教育課程福井県研究集会（県立大学）　８月10日 ○大野市学校教育研究会英語部会研究会（陽明中学校）　11月 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析 ○大野高校互見授業（大野高校）　２学期 大野高校教員による英語授業の参観と指導方法の協議

部	部長名	活　動　計　画
勝山支部	久保真理子 （勝山中部中）	英語教育強化地域拠点事業の指定を受け、今年が4年目の最終年度となる。今年度は各校、１回の授業公開となるが、今年度も中学校同士、そして、校区の小学校の授業を参観し、意見交換を行う。 ４／21　教育研究会部会　今年度の役割分担と取り組みの確認 ５／19　授業検討会　於：勝山中部中学校 ６／16　中教研奥越ブロック研究会　於：勝山中部中学校 （授業者：勝山中部中　嶋田一仁教諭） ６／21　奥越英語セミナー運営委員会　於：陽明中学校 ７／25　奥越ブロック夏季英語セミナー　於：勝山市ジオアリーナ ８／１　教育研究会部会 ８／10　県中学校教育課程研究集会　（１名参加） １～３学期　公開授業互参観　於：勝山南部中学校、勝山中部中学校 勝山北部中学校 ３学期　スペリングコンテスト 市内３中学校が学年毎に同じ問題に取り組み、学習意欲を高めると同時に、市全体の学力アップに努める。（14回目）
鯖江市部	飛田千登枝 （鯖江中）	今年度も、平成２９年度福井県英語教育研究大会（鯖丹大会）の成功に向けて、研究テーマ「自分の気持ちや考えを生き生きと伝え合う生徒の育成」のもと、丹生郡の英語部会と更に連携を深めながら、授業の質と教師の指導力向上に努め、中身の濃い研究実践を積み重ねていきたいと考えている。また小学校からの英語教育の強化に伴い、今年度も市内三中学校の英語教員による出前授業を、それぞれの校区の全小学校で実施する等、小学校との連携の更なる強化に努めたい。 今年度は、以下のような事業内容を計画している。 （１）研究実践　①鯖丹地区英語部会授業研究会の充実と各研究部会による実践研究の推進 ②鯖丹地区合同主任会による共通理解・連携の強化 ・平成２９年度研究大会運営及び研究実践についての検討 ③学習到達目標（CAN-DO 形式）の作成と CAN-DO ワークシートの作成 （２）小中連携　①小中における授業研究の案内を、市内全ての小中学校に送付し参観を呼びかけ、意見交換を行ったり、中学校英語教員による小学校での出前授業を実施したりするなど小中連携を強化し、小学校から中学校へのよりスムーズな移行がなされるよう努める。 ・小学校の外国語活動授業研究会への積極的な参加

部	部長名	活　動　計　画
鯖江市部	飛田千登枝 （鯖江中）	・中学校英語教員による出前授業の実践 （１、２学期は６年生対象　３学期は、５年生対象に実施） （３）丹南地区英語セミナー（担当　鯖丹地区） 鯖江文化センター　８月２１日実施 各活動の見直し・当日の運営等に関して全員で協力して取り組みより質の高いセミナーの実施をめざす。昨年度新しく取り入れた活動については、改善を図りよりよいものにしていきたい。
丹生郡部	浅井　裕規 （織田中）	丹生郡英語研究部会は、郡（越前町）内４校の英語科教員で構成されている。特に今年度は、１１月に開催される福井県英語教育研究大会（鯖丹大会）に向けて、研究テーマ「自分の気持ちや考えを生き生きと伝え合う生徒の育成」のもと、鯖江市の英語科教員との連携をとりながら研究を進めている。また、中高一貫教育を進める丹生高校や、郡内の小学校とも連携もとりながら研究を行っていく。主な活動については以下のとおりである。 １　英語科主任会 鯖丹地区合同主任会を定期的に開催し、福井県英語教育研究大会（鯖丹大会）に向けて研究を推進していく。 ２　授業研究会 鯖丹地区で授業研究会を年３回開催し、授業研究を進める。鯖江市・丹生郡の中学校や丹生高校へも参加を呼びかける。 ・第１回：５月　宮崎中学校 ・第２回：６月　東陽中学校 ・第３回：７月　越前中学校 ３　福井県英語教育研究大会（鯖丹大会） ・期日：１１月２２日（水） ・会場：朝日中学校 ・研究テーマ：「自分の気持ちや考えを生き生きと伝え合う生徒の育成」 ・講演：講師　平木　裕（文部科学省初等中等教育局視学官） 演題　「新教育課程における外国語教育が目指すもの」 ～中学校学習指導要領の改訂を中心に～ ４　中高連携教育 中高一貫教育英語研究部会を定期的に開催し、郡内４中学校と丹生高校とが連携して、中高６年間を見通した教科指導法についての研究協議をする。 ・郡内４校の２年生を対象に、丹生高校の教員が訪問授業を行う。(11月) ・丹生高校の授業力向上公開授業に積極的に参加する。（６月、１１月） ５　丹南ブロック英語セミナー ・期日：８月２１日（月）

部	部長名	活　動　計　画
丹生郡部	浅井　裕規 （織田中）	・会場：鯖江市文化センター ・対象：中学２年生 ・事業担当：鯖丹地区
越前市・今立郡部	水谷　善長 （武生三中）	**活動概要** １　組織の概要 ・本英語教育部会は、越前市・今立郡と南条郡の英語部会から成り、全英語教員が授業研究委員会と資料作成企画委員会の２つの委員会のどちらかに所属する。 ・授業研究委員会は、研究授業の協力や研究発表の準備を行う。一方、資料作成企画委員会は、英語セミナーの企画・運営を行うとともに、年間指導計画、試験問題や指導案等の資料に加えて、今年度からは小学校英語にかかる小中連携の取組資料も集約管理し、資料や情報の共有化を促進する。 ２　組織的な運営と情報の共有 ・ブロック内の主任会を年間３回開催し、組織の運営・企画・情報交換に努める。 ３　英語教員の授業力向上と研究の推進 ・「互いに気持ちや意見を伝え合い、考えを深めようとする生徒の育成 ～４技能を総合的に育成する指導の工夫～ 」の研究主題のもと、授業研究委員会が中心となり今年度担当校を支援しながら、４技能を総合的に向上させる研究を進めていく。 ・授業研究会は年３回開催され、公開授業と研究会を通して授業力の向上を図る。 ・夏季休業中には、英語教員研修会を実施し、授業づくり等について意見交換やプレゼンを行い、授業力向上に繋げていく。 ４　丹南ブロック英語セミナーの企画・運営 ・鯖丹地区と合同で英語セミナーを企画・運営する。本年度は鯖丹地区が中心になり企画するが、南越地区からも資料作成企画委員会の担当教員を派遣し合同で準備を進めていく。当日の運営は、鯖丹地区と南越地区の全英語教員が協力して行い、セミナーの成功と生徒の英語力の向上を目指す。 **活動計画** １　今年度の重点目標 ①　授業研究会と夏季研修会を通した若手教員の育成 ②　丹南ブロック英語セミナーの成功 ③　資料作成にかかる内容の充実（Can-Do List を含む年間計画、小中連携資料等）

部	部長名	活　動　計　画
越前市・今立郡部	水谷　善長 （武生三中）	２　事業計画 ①　市教育研究会総会参加（４／１４　武生西小） ②　英語科主任会開催（学期に１回　南越ブロック） ③　英語科授業研究会開催 （１学期：武生五中、２学期：武生六中、今庄中） ④　県英語研究会関係行事参加 （６／９総会・講演会、１０／４県英語弁論大会） ⑤　県中教研英語教育研究会参加（８／１０　県立大 ） ⑥　英語セミナー運営（８／２１　鯖江市文化センター　中学２年対象） ⑦　県英語教育研究大会参加　（１１／２２　朝日中）
南条郡部	樫尾　基司 （河野中）	南条郡は、授業研究会や研修会、また丹南ブロック夏季英語セミナーなど南越ブロックで活動しており、郡単独として活動することは少ない。 ６月２０日　第１回南越地区授業研究会（武生第五中） ６月２２日　中教研鯖丹・南越ブロック研究集会（南条中） ７月２５日　南越ブロック英語科夏季研修会（武生第三中） ８月１０日　県中教研集会（県立大学） ８月２１日　鯖丹・南越ブロック夏季英語セミナー（鯖江市文化センター） １０月　５日　第２回南越地区授業研究会（武生第六中） １１月　２日　南越地教委連英語科授業研究会及び南越地区授業研究会（今庄中）
敦賀市部	木原　茂子 （角鹿中）	敦賀市英語科研究部会は５校、１９名の会員数で構成されている。今年度は特に、小中連携の視点で、小学校英語活動部会との連携のもと、小中合同授業や合同研修会を計画している。小学校との接続を意識した授業づくりをすることで、教員の教科指導力の向上を図る。 研究内容 ○敦賀市統一英語コンテストの実施や学力テスト等の分析や対策を行い、基礎・基本の定着を図る。 ○小中連携の授業づくりを研究する。 ○英検受験者に対する指導の研究をする。 ４／１０（月）第１回部会　年間活動計画等協議および役割分担 ５／１５（月）第２回部会　市の指導主事を招いて、小中連携授業の研修会 ６／１９（月）第３回部会　英語セミナー計画 ８／２　（水）第４回部会　二州地区英語セミナー

部	部長名	活　動　計　画
敦賀市部	木原　茂子 （角鹿中）	８／１０（木）県中学校教育課程研究集会 １０／１６（月）第５回部会　授業研究会指導案事前検討 １０／３０（月）第６回部会　小学校外国語活動部会とともに授業研究会合同研修会 １１／２０（月）第７回部会　授業研究会　気比中学校　西尾　知愛教諭 １２月上旬　　ＡＬＴによるクリスマスキャロル １／１５（月）　第８回部会　ＳＡＳＡおよび学診結果分析 ２／１９（月）　第９回部会　反省とまとめ、来年度への課題と提言
三方郡・三方上中郡部	堀口　尚敬 （美浜中）	昨年に引き続き、英語教育における小中高との連携を図るため、町内の小中学校や近隣の高校の先生対象に公開授業を行う。また授業力向上の研究のため、嶺南東ブロック３中学校（美浜、三方、上中）で授業研究を行い、１０／３に上中中にて公開授業・研究会を持つ。 【平成２９年度活動計画】 ４月　・中高一貫教育連携クラス年度始め打ち合わせ会議 （美方高・美浜中・三方中・上中中） ・三方中、美浜中に美方高校より乗り入れ授業開始 ５月　・第１回中学校授業力向上研修会推進委員会 ６月　・小中連携公開授業（美浜中） ７月　・美方高校英語科教員　三方中・美浜中に出張授業実施（２年生） ８月　・第１回中学校授業力向上研修会・二州ブロック英語セミナー　参加 ・県中学校教育研究集会　参加 ９月　・三方中、美浜中に美方高校より乗り入れ授業開始 ・第２回中学校授業力向上研修会（上中中） ・校内公開授業（美浜中） １０月　・第５９回県中学校英語弁論大会　参加 ・第２回中学校授業力向上公開授業・研究会（上中中） ・校内公開授業（美浜中） １１月　・美方高校体験入学（三方中・美浜中２年生） ・福井県英語教育研究大会　参加 ・校内公開授業（美浜中） ・小中連携公開授業（美浜中） １月　・中高一貫クラス英語研究発表会 ２月　・第３回中学校授業力向上研修会 ３月　・中高連携クラス年度末打ち合わせ会議 （美方高・美浜中・三方中・上中中）英語科中高連携授業

部	部長名	活　動　計　画
三方郡・三方上中郡部	堀口　尚敬 （美浜中）	この地域における小中の連携を積極的に進め、また美方高校及び各町教育委員会との連携を進める中で、地域に根差した新しい小中高連携の取り組み方を模索していきたいと考えている。
若狭ブロック（小浜・三方上中）	中島　正二 （小浜中）	【平成29年度　活動計画】 ４月１７日　小浜市教育研究会（英語部会）① ４月２６日　小浜市英語授業作り研修会（１） ６月　５日　小浜市教育研究会（英語部会）② ７月２５日　小浜市英語授業作り研修会（２） ８月１６日　若狭ブロック英語セミナー事前打ち合わせ・準備 ８月１８日　若狭ブロック英語セミナー（小浜市食文化館） ９月１５日　小浜市英語授業作り研修会（３） １０月　２日　小浜市教育研究会（英語部会）③ ２月　５日　小浜市教育研究会（英語部会）④ ２月２２日　小浜市英語授業作り研修会（４） 授業研究会 ９月１５日　授業研究会（小浜第二中学校） １０月１７日　授業研究会（小浜中学校）
大飯郡部	仲野比佐代 （内浦中）	大飯郡内には４校の中学校があり、郡単独で活動することは少ないが、英語セミナーは若狭ブロックで、中学校英語科授業力向上研修会は４町合同（美浜町・若狭町・おおい町・高浜町）で開催している。 ４月１０日　・大飯郡教育研究会総会 ５月１１日　・第１回中学校授業力向上研修会推進委員会 ８月１６日　・若狭ブロック英語セミナー打ち合わせ（高浜中学校） １８日　・若狭ブロック英語セミナー（小浜市食文化館） ８月２５日　・第１回中学校英語科授業力向上研修会 １０月　・第２回中学校英語科授業力向上研修会授業公開 ・第59回県中学校英語弁論大会参加 １月　・第３回中学校英語科授業力向上研修会

企　画　部

部長　　西　口　佳　光（丹生高校）

●平成29年度（2017年度）企画部行事予定

行　事　名　・　会　場	委　　員
第60回中学校英語弁論大会 期日：10月４日（水） 会場：鯖江市文化センター 後援：県教委・読売新聞社 協賛：コカコーラ	委員長：谷口　賢次（武生第二中学校） 古市　恵三（大安寺中学校） 和田　祐樹（鯖江中学校） 園井　圭介（武生第一中学校）
高松宮杯の予選を兼ねています。参加者の増加はとても喜ばしいことですが，１日での公平な審査が困難になったため、Ｈ２８年度より２名出場可能な学校を生徒数「400人以上」から「500人以上」に変更させていただきました。詳しくは要項をご確認下さい。	
第56回高校英作文コンテスト 期日：９月23日（土） 会場：各高校 共催：高文連 後援：県教委・福井新聞社	委員長：吉川　長利（勝山高等学校） 中井　慶子（大野高等学校） 伊藤美智子（敦賀高等学校） 梅田　武幸（若狭高等学校） 稲葉百合子（仁愛女子高等学校） 田中　　操（敦賀気比高等学校） 黒瀬　洋子（武生東高等学校）
夏休み前にテーマを与えられるＡ部門，会場で絵や漫画を見て創作するＢ部門，会場でテーマを与えられて創作したり意見を述べたりするＣ部門があります。	
第57回高校英語弁論大会 期日：９月30日（土） 会場：福井県国際交流会館 共催：高文連・ライオンズクラブ 後援：県教委・福井新聞社 福井テレビ	委員長：青山　秀樹（福井商業高等学校） 笠松佳代子（丸岡高等学校） 高崎久美子（丸岡高等学校） 吉田　充宏（高志高等学校） 西尾　康弘（道守高等学校） 山口　隆子（丹生高等学校） 森　　三穂（丹生高等学校） 永田乃理子（丹生高等学校）
第１部（海外経験、同居家族に制限あり）、第２部（左記制限なし）、第３部（卒業までの英語１２単位以下）で競われます。東海北陸大会の予選を兼ねています。ライオンズクラブ海外派遣生を、優秀者から選びます。	

※　高校英語セミナーについて

Ｈ２３年度より休止となっておりましたが、本年度をもって廃止とさせていただきます。

放送テスト部

部長　　加　藤　　修（三国中学校）

日頃より英語放送テスト部の活動に対しまして、先生方からの温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで今年度も全中学校（21,000人余り）と、多くの高校（2,000人余り）の生徒のために放送テストをご採用いただきました。ありがとうございます。

さて、英語放送テスト部は、今年度４名の新規部員（中学校４名）を迎え、昨年度と同数の32名のメンバーで活動をしています。変革の時期を迎える高校入試への対応、小学校英語教科化を見据えた問題作成など、新しい視点をもって活動を進めております。

今年度の活動について説明します。

１．Ｄ（高校１・２年生向け）の発行廃止について

昨年度は、Ｄ問題の発行回数を２回からさらに１回に減らし、平成２９年度は、Ｄ問題の発行を休止します。理由は、部員確保の状況が厳しいということと、高校からの需要が減少しているということです。昨年度よりその代わりとなる活動としまして、主に高校教員で編集委員を組織し、Ｄ問題の過去問題集の編集を進めているところです。発行日などは未定ですが、しばらくお待ちください。

２．結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率やIDI（上位25%と下位25%の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。昨年度は参加できる教員が少なく、結果検討会議を開くことができませんでしたが、今年度は３月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率やIDIなどのデータをもとに検討会を行ないます。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

３．問題作成について

これまで放送テスト部会は、県立高等学校学力検査への対応も含めて、対話のターン数の増加、問題の語数の増加、推論発問の導入などに取り組んできました。

また、様々な種類の問題に対応できるように、B問題・C問題の長文問題（問４）に、確認テストや学力診断テストにあるような記述式問題を「チャレンジ問題」として付けるという試みを始めました。難易度やスピード、表現等についての指摘も含めまして、現場の先生方からのフィードバックを参考にしながら問題の改善を図っていきますので、ぜひともご意見をお聞かせください。

さらに、小学校での英語の教科化への対応として、小学生を対象とした問題作成についてもすでにプロトタイプを作成し、その準備を始めています。作成の元となる教材や小学生の現状、問題形式などについて様々な課題がありますが、関係機関等とも連携を取りながら、準備を進めていきたいと考えています。

以下、本年度の採用状況・出題範囲・活動計画・構成部員についてお知らせします。

４．平成29年度の採用状況

種別	対　　象	申し込み数（名）	
A	中学１年生	6,939	
B	中学２年生	7,321	
C	中学３年生	7,171	9,006
	高校１年生	1,835	

５．各問題の出題範囲

種別	対　　象	第　1　回	第　2　回	第　3　回
A	中学１年生	P. 4　Hi, English 1～ P. 45 まとめと練習２ **１回のみカラー印刷**	P. 46　Unit 4 ～ P. 83　Daily Scene 3	P. 84 Unit 8 ～ P.121 Unit 11
B	中学２年生	(NH1) P.122 Daily Scene 7 ～ (NH2) P. 49 Presentation	P. 50　Let's Read 1 ～ P. 79　Daily Scene 5	P.　80　Unit 6 ～ P. 109　Unit 7
C	中学３年生 **移行措置期間** 高校１年生	(2012 NH2) P. 86　Multi Plus 3 ～ (2016 NH3) P. 33　Daily Scene 2	P. 34　Unit 3 ～ P. 81　Daily Scene 5	P.　82　Unit 6　～ P. 111　Let's Read 3
D	高校１年生 高校２年生	※H29年度より、Ｄ問題を発行しない。 ※Ｄ部会の活動として、Ｄの過去問題集を作成、発行する。		

平成29年度は中学３年生のみ移行措置期間

	中学１年	中学２年	中学３年
平成29年度	2016NH	2016ＮＨ	2016ＮＨ
平成28年度		2016ＮＨ	2016ＮＨ
平成27年度			2012ＮＨ

６．平成29年度活動計画

・問題形式や活動方針に関する全体会議	３回（６月、１１月、２月）
・問題作成会議	１２回（夏季・冬季休業中）※13時～17時
・録音および校正会議	６回（録音会議は９月、１０月，３月の土曜日／校正会議は各録音会議の３週間後）
・結果検討会議	１回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会議	４回（必要に応じて随時）

７．　平成29度部員および役割分担

No	名　　前	学校名	問題作成	その他の役割
1	嶋　田　晃　士	明倫中学校	B	校正・結果検討
2	松　田　祐　樹	光陽中学校	C	校正・結果検討、校正アシスタント
3	兼　井　智　加	進明中学校	A	校正・結果検討
4	髙　田　由紀子	成和中学校	A	校正・結果検討
5	河　合　　創	大東中学校	A	録音チーフディレクター、校正アシスタント
6	ハート　真由美	大東中学校	B	校正・結果検討
7	窪　田　聡　美	川西中学校	C	校正・結果検討
8	栗　田　由紀枝	森田中学校	－	校正チーフ
9	鋸　谷　卓　磨	社中学校	B	校正・結果検討
10	桑　原　ゆうき	清水中学校	C	校正・結果検討
11	吉　田　広　視	芦原中学校	B	問題作成チーフ、校正・結果検討
12	林　　智　世	三国中学校	C	校正・結果検討
13	若　林　京　子	丸岡南中学校	B	校正・結果検討
14	斉　藤　洋　輔	坂井中学校	A	校正・結果検討
15	上　塚　大　貴	中央中学校	C	校正・結果検討
16	木　村　友　美	中央中学校	A	校正・結果検討
17	髙　松　三七子	朝日中学校	C	校正・結果検討
18	福　田　泰　子	朝日中学校	C	校正・結果検討、アナウンスアシスタント
19	太　田　　萌	万葉中学校	B	校正・結果検討
20	窪　田　乃里子	池田中学校	A	校正・結果検討
21	堂　埜　真　希	三国高校	（C）	校正・結果検討、チーフアナウンサー
22	田　川　真理子	金津高校	過去問	校正・結果検討
23	田　嶋　由　美	丸岡高校	過去問	校正・結果検討アシスタント
24	林　　淳　子	福井商業高校	過去問	校正・結果検討
25	大　村　昭　友	武生高校（定）	－	校正・結果検討チーフ
26	内　田　冬　萌	丹生高校	過去問	校正・結果検討アシスタント
27	森　　一　生	武生東高校	過去問	過去問作成チーフ、校正・結果検討
28	松　宮　利　絵	敦賀高校	（C）	校正・結果検討
29	奥　野　信太郎	敦賀高校	過去問	校正・結果検討、録音アシスタント
30	加　藤　　修	三国中学校	－	事務局（部長）
31	野　﨑　恵　美	社中学校	－	事務局（副部長・会計等）
32	伊　藤　美智子	敦賀高校	－	事務局（副部長・文書発送等）

部員一同、福井県の生徒のためにがんばります。

放送テスト部長の加藤です。

「伝統を守る」ことが困難で、予算削減や業務縮小などの声も上がる中での活動はなかなか厳しい状況なのですが、部員は活動に携われることを「意気に」感じ、英語教育改革の一翼を担うべく奮闘しています。

今後ともなにとぞ、ご指導、ご愛顧賜りますようお願いいたします。

広　報　部

部長　　稲　葉　芳　明（大野高校）

日頃より広報部の活動に暖かい御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

２０１５年３月発刊『会報 第73号』で表紙からレイアウト・デザイン、内容構成に至るまで大幅なリニューアルを試みましたが、お陰様で多くの先生方が好意的に受け入れて下さり、部員一同感謝致しております。

今年度は、従来の広報部活動と大きな変更はございませんが、一層充実したものになるよう部員一同努力しますので、宜しく御支援ください。

県小教研英語活動部会と県英研（県中教研英語部会、県高教研英語部会）がより密接に連携活動を行えるよう、本年度も『会員名簿』に県内全小学校の英語活動担当主任名を掲載致しました。

『会報』では第73号から「英語科紹介」コーナーを復活して、第７３号で奥越地区、第７４号で坂井地区、第７５号で丹南地区（Part１）の英語科を御紹介しました。今年度は丹南地区の学校紹介 Part 2を掲載する予定です。

また「BOOKSHELF」コーナーでは、英語学、英米文学、英語教育、英語一般に関する書籍を幅広く取り上げてまいりますが、今号では英研役員の先生方の原稿を掲載いたしました。会員の皆様も、ぜひ玉稿を御送付下さい。

１．平成２９年度事業報告

１）福井県英語研究会会員名簿発行（６月９日、６５０部）
２）福井県英語研究会総会講演会記録
３）『英研ニュース 第４０号』発行（９月、６５０部）
４）福井県英語教育研究大会講演会記録
５）『会報』第76号発行（２０１８年３月、６５０部）
６）福井県英語研究会ホームページ管理運営

２．平成２９年度広報部員

部　長	稲　葉　芳　明（大野高校）
副部長	鈴　木　秀　人（羽水高校）
部　員	森　谷　町　子（大野高校）
	島　田　敏　宏（金津高校）
	織　田　昌　宏（大野高校）
	木　下　　弥　（奥越明成高校）
	川　田　裕　貴（開成中学校）

研　究　部

部長　　辻　　智　生（敦賀高校）

１．各委員会より

（１）リーディングテスト部会

活動内容：リーディングテストＡ、Ｂ、Ｃを３回分作成

第１、２回を６月、第３、４回を１０月、第５、６回を２月にそれぞれ配付

昨年度同様、教科書の変更に合わせて各回の言語材料を見直し、新しいテーマに関連したリーディング教材を作成します。更に『Let's Read A,B,C』も例年通り改訂を加えます。なお、２９年度Ｃの第１回は２８年度の嶺南リーディングチームが作成しております。

活動場所は、嶺北は主に福井市の研修センター、嶺南は敦賀高校です。今年度も作成委員の確保に苦労しましたが、委員長の高木先生をはじめ、参加した先生方が創意工夫を重ね、良い問題が出来上がりつつあります。先生方の問題作成の技量も回を重ねるごとに向上していると感じています。なお、今年度は嶺南リーディングに関しては、冬場ではなく、７月頃から一月に１回のペースで１回分を作成することを考えています。

なお、最後に各リーディングテストの出題範囲を掲載しています。指導の参考にして下さい。

（２）リサーチ委員会

活動内容：Skimming、Scanning、Guessing（バラテスト）を３回分作成

第１回６月、第２回９月、第３回１２月にそれぞれ配付

Reading for Message（冊子）５月に配付

例年通り Skimming、Scanning、Guessing の３種類のリーディング技能養成問題（バラテスト）を作成します。和訳に頼らない英文読解のヒントを生徒に与えることを目指し、また生徒が読んで「面白い、ためになった、もっと読みたい」という気持ちになる教材作成を目指して作成しています。冊子の『Let's Read for Message』もこれまで通り作成します。ＲＦＭ作成の趣旨を活かした継続的な活動を続けていきます。また作成委員の増員を図りたいと考えています。

（３）ＴＥＦＬ委員会

ＴＥＦＬ委員会の方では、中高橋渡し教材『Bridging』を本年度も多くの高校で採用いただきました。発刊時の精神を踏まえつつ、英文の題材や問題を中心に大きく改訂を行いました。大きな改訂ポイントの一つとしては、レッスン０を設けたことがあります。レッスン０では、生徒が日本語と英語の語順の違いをあらためて認識することを目指しています。また前回の改訂後には、質問がやや難しくなった、slow learners には取り組みづらいといった現場の先生方の声があったため、英文の内容に関する質問を１から作成しなおしました。一方で、近年の高校入試問題の英文の長文化にともない、難化しないよう気をつけながらも、若干ですが英文の量を増やしました。改訂内容に関してご意見をいただけると幸いです。

今年度は、TEFL 委員会本来の活動に立ち返り、文法指導のあり方を改善したいという考えから、フォーカス オン フォームを意識した指導について研究を重ねていきます。次年度の合本にて発表

したいと考えております。是非、ご覧下さい。

（4）オフィス

今年度の活動として、発行部数を増やすために宣伝活動を行っていきます。ここ数年、Let's Read（冊子）の採用部数は増加しているものの、バラテストは伸び悩んでいる。Reading for message も同様です。購入していただけるよう、よりよいものを作ることを目指すとともに、宣伝活動にも取り組んでいきます。なお、各販売物の値段ですが、消費税率アップなどもありましたが、長い間値上げをしていません。印刷費も高くなりつつあることから、来年度は若干の値上げを検討しております。ご理解とご協力をお願いいたします。

一方で部員が不足した状態が続いています。縮小してはどうか、という声もありますが、私たちは、なんとしても活動を継続させたいと考えています。研究部の活動はほとんどが夜間ですが、作問能力の向上や、授業実践についての省察、悩み事相談、仲間の輪を広げるなどたくさんのメリットがあります。より多くの先生方にこの仲間に加わって頂くことで活動も活性化されます。今まで自分が受けてきた教育と異なる英語教育を求められ、また社会からも、より高度な英語コミュニケーション能力を求められる現在、教員が情報を交換し自分を磨く場としての英語研究会の場は大変貴重です。特に多忙化の中で、先輩教員が後輩の指導に十分にあたる余裕がない現状も学校によってはあるように思います。今年度も生徒の英語力向上のために、英語教員としての資質向上のために、活動していきたいと思います。

２．各冊子の発行部数推移

	Reading Test バラ			Let's Read 冊子			Reading for Message		Bridging
年度	A	B	C	A	B	C	バラ	冊子	
29	1191	1251	1042	2766	3209	5032	1149	863	4131
28	1259	1181	1097	2296	3232	4949	1489	602	4329
27	1368	1222	1019	1790	2788	5085	1627	429	3737
26	1438	1054	1019	1656	3053	4773	1565	459	4081
25	1116	1178	1162	1647	2704	4483	1111	775	4500
24	2136	2174	2202	1083	2328	3766	1265	832	5000
23	2213	2301	2424	1558	2369	4184	1307	1398	4800
22	2216	2290	2250	1186	2275	3780	1214	1464	5300

《H29　Reading Test 作成範囲》

Ａ（Book1）

第１回	（１）--- Hi, English!～Unit 2	pp.4-37
	（２）--- Unit 3 ～ Listening Activity 1	pp.38-45
第２回	（１）--- Unit 4 ～ Presentation 1	pp.46-55
	（２）--- Unit 5 ～ Daily Scene 1	pp.58-65
第３回	（１）--- Unit 6 ～ Listening Activity 2	pp.66-75
	（２）--- 最初～Listening Activity 2	pp.4-75
第４回	（１）--- Unit 7 ～ Daily Scene 3	pp.76-83
	（２）--- Unit 8 ～ 学び方コーナー⑤	pp.84-93
第５回	（１）--- Unit 9 ～ Presentation 2	pp.94-105
	（２）--- Unit 10 ～学び方コーナー⑥	pp.106-115
第６回	（１）--- Unit 11 ～Listening Activity 4	pp.116-135
	（２）--- Presentation 3 ～Let's Read	pp.126-130

Ｂ（Book２）

第１回	（１）--- Unit 0 ～ Daily Scene 1	pp.4-17
	（２）--- Unit 2 ～ まとめと練習１	pp.18-30
第２回	（１）--- Unit 3 ～ まとめと練習２	pp.32-44
	（２）--- Presentation 1 ～ Let's Read 1	pp.46-53
第３回	（１）--- Unit 4 ～ 学び方コーナー②	pp.54-67
	（２）--- 最初～学び方コーナー②	pp.4-67
第４回	（１）--- Unit 5 ～ Daily Scene 5	pp.68-79
	（２）--- Unit 6 ～ Daily Scene 6	pp.80-91
第５回	（１）--- Presentation 2 ～ Let's Read 2	pp.92-99
	（２）--- Unit 7	pp.100-109
第６回	（１）--- Daily Scene 7 ～ Presentation3	pp.110-117
	（２）--- Let's Read 3	pp.118-121

Ｃ（Book３）

第１回	（１）--- Unit 0 ～ Presentation 1	U0,1（pp.4-21）
	（２）--- Unit 2 ～ Daily Scene 2	U2（pp.22-33）
第２回	（１）--- Unit 3 ～ 学び方コーナー①	U3（pp.34-49）
	（２）--- Presentation 2 ～Let's Read 1	LR1（pp.50-57）
第３回	（１）--- 最初～Let's Read 1 まで	（pp.4-57）
	（２）--- Unit 4 ～ Daily Scene 4	U4（pp.58-69）
第４回	（１）--- 最初～Daily Scene 4まで	（pp.4-69）
	（２）--- Unit 5 ～ Daily Scene 5	U5（pp.70-81）
第５回	（１）--- Unit 6	U6（pp.82-91）
	（２）--- Daily Scene 6 ~ Presentation 3	DS7,P3（pp.92-99）
第６回	（１）--- Let's Read 2	LR2（pp.100-104）
	（２）--- Let's Read 3	LR3（pp.105-111）

今年度の研究部員です。よろしくお願いします。

オフィス

	職	名前	学校名
1	部　長	辻　　智生	敦賀高等学校
2	副部長	村　　昭信	金津高等学校
3	副部長	水木　　毅	武生東高等学校

リーディングテスト委員会（嶺北）

	職	名前	学校名
4	委員長	高木　裕代	足羽第一中学校
5	副委員長	土田　　衛	丸岡高等学校
6	委員（A）	宇原　弘晃	至民中学校
7	委員（A）	源藤　里佳	藤島中学校
8	委員（A）	漆崎　智子	進明中学校
9	委員（A）	谷口　広憲	明道中学校
10	委員（A）	永田乃里子	丹生高等学校
11	委員（B）	山内　翔太	殿下中学校
12	委員（B）	原田　真理	足羽第一中学校
13	委員（B）	嶋田　剛久	藤島中学校
14	委員（B）	林　納理子	金津高等学校
15	委員（C）	澤田　亜紀	足羽中学校
16	委員（C）	江波　　梓	鷹巣中学校
17	委員（C）	森本　浩司	藤島高等学校
18	委員（C）	進士　祐介	高志高等学校

リーディングテスト委員会（嶺南）

	職	名前	学校名
19	委　員	水谷　友梨	若狭高等学校
20	委　員	山口　貴美	敦賀高等学校
21	委　員	安井　智子	美浜中学校
22	委　員	松村　結奈	敦賀工業高等学校

リサーチ委員会

	職	名前	学校名
23	委員長	水木　　毅	武生東高等学校
24	委　員	清水　慈昭	羽水高等学校
25	委　員	堀口　伸介	足羽高等学校
26	委　員	錺村　　明	武生東高等学校
27	委　員	近藤久美子	藤島高等学校
28	委　員	橋本　千宙	藤島高等学校

ＴＥＦＬ委員会

	職	名前	学校名
29	委員長	牧野　剛士	敦賀高等学校
30	委　員	大橋　夕紀	若狭高等学校
31	委　員	青山　真弓	藤島高等学校
32	委　員	三仙　真也	藤島高等学校
33	委　員	百田　忠嗣	松陵中学校
34	委　員	山口　貴美	敦賀高等学校

新入会員に聞く

明道中学校　谷口　広憲　先生

①　教師を目指したきっかけ

高校の恩師がきっかけです。高校に入ってから英語が嫌いになったのですが、英語の面白さを教えて下さりました。また、生徒想いで生徒からの信頼も厚く、クラスの雰囲気もとても良く、毎日楽しく過ごせました。私もあんな教師・大人になりたいと思いました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とても緊張していたこと、そして「今の中学生は英語に対してこんなに積極的なのか」と驚いたことを今でも覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

やらなくてはいけない事に追われる毎日で、やりたい事にほとんど時間を費やせていません。早く仕事や業務に慣れていきたいです。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

どのように時間を作り、研究を行っているのか教えて下さい。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

主で担当している学年において英語が嫌い・苦手という生徒が非常に多いので、年度末までに「英語って意外に面白いな」と思ってもらえる授業を行っていきたいです。また、分かるだけでなく、確実に力の付く授業づくりを目指して、日々精進していきたいです。

灯明寺中学校　堀田　彩夏　先生

①　教師を目指したきっかけ

中学生の頃の英語の先生が英語の文法や知識だけではなく、異文化やいろいろな英語の背景知識も教えてくださってとても授業が楽しかったのを覚えています。そして、何よりその先生がいつも笑顔でとても魅力的で、私もこんなふうに人に元気を与えられる人になりたいと思ったのがきっかけです。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とにかく「楽しい」授業をしたい！と意気込んでがんばっていたのを覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

「教科書を教える」ではなく「教科書で教える」を目指すこと、英語を「使える」子どもたちを育てること、など英語教育において大切なことを学んできましたが、学力やモチベーションに差がある中で、目の前の子どもたちの実態に合わせて授業をつくることはとても難しいということを日々感じています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

教材研究になかなか時間が費やせないのが悩みですが、教材研究をする際、大切にしていることは何か、また、どのようにご自身の授業スタイルを確立されていったかお聞きしたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

「英語って楽しいかも」そのような気持ちが少しでも子どもたちの中に生まれたら嬉しいなと思います。そのために、とにかく「授業」を大切に、今できることを一生懸命、そしていつでも子どもたちと真剣に向き合える教師でありたいと思います。

藤島中学校　田中　久美子　先生

①　教師を目指したきっかけ

国際協力の現場で働いたことがきっかけです。学校教育を通して、他者を理解し思いやる心と行動する勇気を子ども達と一緒に考えていきたいと思い、教員になろうと思いました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

分かりやすく楽しい英語の授業を目指すぞ、という意気込みが半分。当日、Ｔ２の先生や指導教員の先生も入っておられたので緊張も半分。といった感じでした。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

自分は通信教育で学んだだけなので、現場での実践がとても新鮮で全てが学びです。知識・技能の両面で知らないことが多く、日々キャッチアップで精一杯といったところです。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

英語は聞けるが書けない（例：英単語や英文は全てローマ字を使って書く）生徒への支援はどうするのが一番良いでしょうか。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

楽しい授業でありながら、きちんと基礎基本の学力を定着させるように工夫したいです。早く一人前の授業ができるようになって、自分にしかできない国際理解や異文化理解の要素も取り入れていきたいと思います。

足羽中学校　伊藤　江莉奈　先生

①　教師を目指したきっかけ

小学５、６年生の担任の先生の学級づくりが好きだったことが、第一の理由です。怒られたこともたくさんありましたが、毎日クラスの雰囲気が明るく、仲良く２年間を過ごすことができたのは、担任の先生のおかげです。そのような学級を、私自身も作っていきたいと思いました。第二の理由は、中高と英語を学んでいく中で、英語の楽しさ・面白さに気づき、それを自分が教師となって子どもたちに教えていきたいと思ったことです。私の友人にも、英語が嫌いな子がたくさんいました。その時に、英語の楽しさを教えることができなかったことを、今でも後悔しています。自分が教師になった時には、「英語が嫌い、苦手」な生徒たちにも、色々な側面から、英語の良さを伝えていきたいと考えました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とにかく、緊張しました。ただ、子どもたちに自己紹介をするだけでも、何を言っていいのかわからなくなっていました。しかし、子どもたちが明るく、とても素直なので、その点に助けられたことを今でも覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

コミュニケーションを生徒たちと行いたいと思って活動してみても、学生時代に学んだように上

手くいくことはありません。学生時代は、周りの友人も私同様に、「英語が好き」な子だったので、自分たちで話を広げることができましたが、現場では、細かい支援がないと広がりません。また、学力差の広がりにも驚きました。私が学生だった時とは違い、学力のギャップが広がっていることを実感しました。いわゆる“できる子”と“できない子”の差をどう埋めていくか、これが今の自分の大きな課題の1つとなっています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

・自己研鑽として、何を行っているのか(英語について、あるいはその他に)

・自分が教師生活を送っている中で、最も大変だったこと・嬉しかったことは何か

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

今後も、まずは生徒たちと授業を楽しく行っていくことを目標にして、精進していきたいと思います。現状、私が受け持つクラスの全ての生徒が英語を楽しめているわけではなく、一部の生徒はつまらなさそうにしています。そのような生徒たちでも、しっかりと楽しむことができるよう、配慮していきたいです。また、生徒たちの声に耳を傾けられる教師を目指していきたいと思います。子どもたちの思いや悩みに真摯に向き合って、子どもたちと共に成長していきたいです。

社中学校　角　有紗　先生

①　教師を目指したきっかけ

留学をしたときに、現地の友達に英語や日本語を教え、「言語を教えるって楽しい！」と思ったことがきっかけです。

②　初めて教壇に立ったときの気持ち

新卒で講師として高校２年生の授業が初めてでした。緊張のしすぎで、生徒たちに助けられてばかりの授業でした。生徒と一緒に過ごす時間の楽しさに、わくわくする気持ちでいっぱいでした！

③　学生時代に学んだことと教育現場でのギャップ

大学では、「中学校での英語の授業も高校と同様、オールイングリッシュで」ということでしたが、現状は難しいものでした。英語で話すと生徒が「わからーん！」とやる気を無くしてしまうことが多く見られたことです。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

１日が２４時間では足りないので、時間の使い方･･･です。

⑤　教師としての抱負

他人を認めることができ、受け入れることができる生徒を育てることです。まだまだ分からないことばかりですが、英語の教員として貢献できるように頑張ります！！

越廼中学校　濱下　恵理子　先生

①　教師を目指したきっかけ

人の人生を幸せにしたり困っている人を助けたりする仕事がしたいという夢と、幼い頃から大好きで、専門的に学んできた英語を活かした仕事がしたいという２つの夢をもっていました。そんな中、母校の高校に教育実習に行った際に、多忙な中でも生徒のことを一番に考え行動される先生方の姿に感動し、教職志向が高まりました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

３年生のクラスが最初だったのですが、「ついにこのときが来たんだなあ、目の前の生徒たちはどんな生徒で、これからそれぞれどんな未来を歩んでいくのかなあ、、、」としみじみ感じたことを覚えています。生徒同士の仲がよく明るい雰囲気で、黒板に書いた似顔絵に大爆笑してくれて安心しました。（笑）

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

大学は文学部だったのですが、もっと教育学について学んでおくべきだったと後悔しています。特に生徒指導の面で戸惑うことが多く、日々先輩の先生方から学ばせていただいています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

より高次の授業を行いたいと思う一方で、生徒の実態に応じていくことも必須であり、どこでどのように折り合いをつけていくのがよいかお聞きしたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

「私に英語をもってもらってよかった！」と、１人でも多くの生徒に思ってもらうことが今の目標です。まだまだ反省ばかりの毎日ですが、生徒と共に一歩ずつ成長していけたらと思います。

開成中学校　岡倉　佑樹　先生

①　教師を目指したきっかけ

高校の時に英語が得意になり、英語を使ったやりがいある仕事をしたいと考えたからです。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

不安と緊張でいっぱいでした。ただ、子どもたちの笑顔と反応から、期待も膨らみました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

学生時代には、意見や考えの伝えあいを重視する授業について、関心をもって学びました。教育現場では、子どもとのインタラクションの難しさ、授業デザインの難しさに苦労しています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

現在、英語を話す力が重視されつつあると思いますが、音読と話す力の関係性について教えていただきたいと思います。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

教室にいる生徒全員が、英語を使う充実感とやりがいを感じられる授業を目指したいと思います。

また、教員である自分自身が、毎回の授業を全力で楽しむというつもりで授業をしていきたいと思います。

丸岡中学校　木下　明里　先生

①　教師を目指したきっかけ

小学生の時から今まで、悩んだ時に支えてくれたのはいつも当時の先生方でした。在学しているときだけでなく、卒業した今も「先生」でいてくれるので、私も子どもたちにとってそのような存在になりたいと思ったからです。

②　初めて教壇に立ったときの気持ち

新卒で講師として中学校２年生の英語の授業がはじめてでした。生徒も「どんな人だろう」と見

ていた部分もあるし、私自身もうまくやろうとしすぎて空回りしてしまったのを覚えています。自分自身が緊張してしまうと、生徒にもそれがうつって余計だめだと学びました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

大学では、コミュニケーション中心の教育を学び、今も対話型の授業が求められていますが、現実は生徒の間にも差があり、思った通りに授業が進まないこともあって困っています。学力差のある生徒への一斉指導にも日々悩んでいます。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

生徒が飽きずにできるリーディングの方法ややり方などがあれば教えてほしいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

小学校から中学校にあがり、「英語嫌い」になってしまう生徒が多くみられました。少しでも英語嫌いの生徒を減らし、英語がわかるという面白さを授業の中で伝えていきたいです。

鯖江中学校　藤間　真斎　先生

①　教師を目指したきっかけ

以前は英語が苦手でしたが、高校のときのクラスに留学生がやって来ました。英語の先生が流暢に話しているのを見て、かっこいいな、私も話したい！と思いました。それから、もっとその子のことが知りたい、仲良くなりたいという思いから英語を一生懸命し、英語って楽しいと思えるようになりました。そのような気持ちを共有できたらいいなと思い、教師を目指しました。

②　初めて教壇にたった時の気持ち

どのようなことをしようかなと色々と考えていたのですが、いざ教壇に立ったら生徒の視線にとても緊張したことを覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

実際に授業をしてみると生徒の能力差が大きく、どのようにどの生徒も飽きさせないか戸惑っています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

どのようなことを自分自身の英語力向上のためになさっていますか。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

生徒が授業を通して、自分の考えや気持ちを伝えられるように１年間教材研究や日々の授業を大切にしていきたいです。

武生第二中学校　山田　恵莉　先生

①　教師を目指したきっかけ

中学校のときに英語が好きになり、将来英語に関わって仕事をしたいと思っていました。社会人になり、英会話講師をしていた際、子どもが英語を吸収する姿に感動し、公立学校で多くの生徒と関わりたいと思うようになりました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とても緊張しました。いろいろ準備していきましたが、予想していたように授業が進まず落胆したのを覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

英語を苦手だと思っている子が多いことや、生徒のレベルがバラバラだということに教育現場の難しさを感じています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

・生徒に自発的に英語で発言をさせるために工夫していることは何ですか。

・１～３年目に授業づくりで意識していたことは何でしたか。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

生徒が英語を使いたいと思えるような魅力ある授業を作っていけるようになりたいです！日ごろの授業の反省をしっかり行い、ほかの先生方の授業見学や研修参加などで力をつけていきたいです。

気比中学校　利内　美樹　先生

①　教師を目指したきっかけ

中学校・高校と英語が大嫌いでしたが、アフリカで教師になりたいと高校の先生に相談すると英語を勉強しなさいと言われたことがきっかけです。英語を勉強し始めると楽しくなり、英語教師を目指すようになりました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

話す言葉を書いて授業に望みました。緊張していたのですが、いざ始まると生徒と会話をする楽しさを感じていました。生徒にたくさん助けてもらったのを覚えています。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

生徒の能力の差や英語学習に対する意欲の差でペア活動やグループ活動にかかる時間がバラバラになってしまうことに悩まされることが多く、その差をできるだけ無くすことが難しいと感じています。また、英語が苦手な生徒の対応の難しさにも戸惑っています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

英語があまり得意ではない生徒の興味を引き出す工夫、苦手な子を伸ばしつつ、出来る子も放っておかない授業の進め方、時間の使い方などです。全員が授業のどこかで必ず参加できる工夫をするにはどのような手だてがありますか。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

全員が授業で一回は活躍できる場面を作り、英語が嫌いではないな、英語を使ってみたいなと生徒達が思えるような授業づくりを頑張ります。多様な文化・言語があり、世界は広いようで身近だな、面白そうだなと思えるきっかけを作ることができる教師を目指していきたいです。一英語学習者として生徒に負けないように英語を楽しんで学習していきます！

松陵中学校　道関　麻衣子　先生

①　教師を目指したきっかけ

小学校の頃から英語や海外の文化にふれあう機会があり、それを知ることの楽しさを子どもたちに伝えたいと思ったので、英語教員を目指しました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とても緊張しました。緊張しすぎてあまり覚えていませんが、授業時間いっぱいまでなんとか授

業をしようと必死だったと思います。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

生徒の学力差があるということは学生時代から言われていたのですが、その子の学力に合った指導法をどのようにすべきかをいつも悩んでいます。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

英語が得意ではない子が楽しいと思える工夫をどのようにされているか。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

グループ活動やペア活動を多く取り入れ、伝えることや知ることの楽しさを感じさせることができる授業を作っていきたいです。また、英語を話すということだけではなく、海外の文化や日本との違いを知っておもしろいと思えるような工夫も取り入れて行けたらいいなと思っています。

粟野中学校　齊藤　佑介　先生

①　教師を目指したきっかけ

英語が好きで、中学生の頃の夢はアメリカに行くことでした。その夢をようやく実現し、そこでは多くの驚きと価値観を大きく揺さぶる出来事で溢れていました。その感動と楽しさ、そして世界の広さをどうにか子どもたちに伝えることができないかと思い、英語科教員を目指すようになりました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

教室がこれほど静かな空間なのかと驚きました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

オールイングリッシュでの授業の困難さ。音声コミュニケーションの偏りによる、音声と文字の不一致、読解力不足。教室内での学力差。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

先生を目指した頃の目標と現在の目標に変化はありますか？

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

今は試行錯誤の中失敗を繰り返していますが、これからも自分の目標を忘れずに、より良い授業づくりに努めたいです。

小浜第二中学校　若松　祥太郎　先生

①　教師を目指したきっかけ

学校には強い思い入れがあります。部活、勉強、学校祭などで楽しかったりつらかったりした思い出が支えとなって今の自分があると思います。生徒達にも、自分と同じように学校でたくさんの思い出を作ってよりよい人生を送ってほしいと思い、教師を目指しました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

不安はありましたが、生徒たちが温かく迎えてくれたので、すぐ不安が楽しさに変わりました。同時に、この子達のために一生懸命授業しようという気持ちになりました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

理解が遅い子が多いので、基礎を押さえることに時間がかかってしまい、なかなか深い学びやコ

ミュニカティブな学習までできないです。
④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと
　限られた時間の中で、基礎を押さえつつ、深い学び、対話的な学びを進める方法を教えてほしいです。
⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負
　すべての生徒が「わかった」、「できた」と実感できるように工夫を凝らしていこうと思います。また、間違いを恐れず積極的に英語を使える生徒を育てていきたいです。

美浜中学校　中坪　克哉　先生

①　教師を目指したきっかけ
　私自身英語が苦手だったため、自分のように英語で苦労をしている生徒を減らしたいという思いから教員を志望しました。また、一人でも多くの生徒が英語の面白さを実感することができるような、魅力ある授業を行う教師になりたいと考えています。
②　初めて教壇に立ったときの気持ち
　初めての授業はとにかく緊張でいっぱいでした。授業をスムーズに行えているかどうかの一点のみを考えていました。
③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み
　大学では、理論的な面から教育について考えることが多かったですが、現場では児童・生徒の目線に合わせる必要があります。大学時代は教師を中心に教育について考えていましたが、生徒を中心に考える視点が増えました。
④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと
　教師になって良かったと感じるのはどのような時かお尋ねしてみたいです。
⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負
　生徒の視点を大切にした授業づくりを行うことができるように、日々の教材研修・自己研鑽に励んでいきたいと思います。

高浜中学校　齋藤　悠　先生

①　教師を目指したきっかけ
　中学の頃から英語が好きだったことと、高校の時の英語の先生が持つ雰囲気に憧れたからです。
②　初めて教壇に立った時の気持ち
　とにかく不安でいっぱいでした。冷や汗を生徒に指摘されなおさら緊張しました。
③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み
　生徒との信頼関係を築くこと・維持することの難しさを痛感しています。また、それなしでは良い授業も生徒指導もできないということも感じています。
④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと
　生徒の能力差に対応するために授業でどのような工夫をされているのか知りたいです。
⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負
　今は教科書をこなすことに精一杯になってしまっているのですが、今後はもっと「生徒を育てる」

という意識を強く持って指導を考えていきたいと思っています。

三方中学校　黒川　晶平　先生

①　教師を目指したきっかけ

母親が教師をしており、幼いころから学校での様々な逸話を聞かされて育ちました。英語がずっと得意科目で、子どもとの関わり合いも好きだったので、英語教師を志すようになりました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

授業が始まる前は緊張と不安でやや体調不良でしたが、いざ始まると意外と自然に生徒の前で話すことができました。ただ、予想していたよりも生徒たちの反応が薄く、時間の流れがとても遅く感じました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

学生時代に英語力を高めたり見聞を広げたりする努力をしてきたのに、授業ではあまり発揮できていないと感じていること。

④　先輩の先生方に訪ねてみたいこと

なかなか時間がとれないとは思いますが、もし休暇中を利用して海外旅行に行った経験があるのであれば、訪れた国や計画を立てるうえでのアドバイスをいただきたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

生徒たちが今後どうなってほしいかを考えた授業づくりに励んでいきたいと思います。まずは自分が楽しむことを忘れず、真摯にそして謙虚に取り組みたいです。

武生高校　鈴木　和尭　先生

①　教師を目指したきっかけ

自動運転・人工知能・仮想通貨が普及する近未来を生きる子供たちが、今、何を学ぶべきなのかを探したいというのがきっかけです。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

ひたすら緊張しました。指を何かにひっかけて左手から血を流しつつも、それに気づかず授業していました。生徒に指摘され、クラスは爆笑でした。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

教師になるための訓練を受けずに教育の世界に飛び込んできたので何もかもが新しいです。毎日毎日を生き残るのに一生懸命です。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。教科を横断する教育・授業において英語科の果たす役割を教えてください。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

短期的：一人でも多くの生徒に「出席する値打ちがあったな」と思ってもらえるよう試行錯誤しています。長期的：電卓があるのになぜ計算を学ぶのかと同じように、機械翻訳があるのになぜ英語を学ぶのかと言われる時代が来ました。その疑念に答えられる授業を模索していきたいです。

敦賀高校　林　香苗　先生

①　教師を目指したきっかけ

高校時代にお世話になった英語の先生で、英語の知識がとても豊富で、一つのことを質問するとプラスアルファの情報も加えて答えてくれる方がいて、その先生にあこがれたのがきっかけでした。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

前日はとにかく緊張していて、眠れませんでしたが、いざ生徒たちの前に立ってみると、「よし、やるぞ」という気持ちになって、不思議と落ち着いて授業をすることができました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

学生時代は、様々なアクティビティや、四技能をいかにして伸ばしたらいいかなどのテクニックを主に学んでいましたが、英語が本当に嫌いで、授業に参加することを拒否してしまっているような生徒がいるという事実に直面し、ショックを受けてしまいました。また、クラスには英語に対する意識や能力が様々な生徒が混在しているため、ペアやグループによって活動の質に差が出てしまい、それを均一にするためにはどうしたらいいか、悩んでいます、

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

英語に強い苦手意識を持っている生徒に、少しでも「授業を聞いてみよう・参加してみよう」と思わせることができるような工夫を伺ってみたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

外国語を学ぶことや異文化を知ることの楽しさ・大切さを伝えられるような授業をしていきたいです。そして、それを通して、多様性を受け入れ、他者の意見を尊重することが出来る生徒を育てていきたいです。

坂井高校　小川　陽平　先生

①　教師を目指したきっかけ

子どもの頃から英語が好きで、生徒にもその楽しさを伝えたいと思い教員を目指しました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

時間配分・黒板の使用など至らない点が多く、しっかり教材研究を行う必要性を実感しました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

計画した授業活動と実際の生徒の反応が大きく異なり、生徒の実態を把握し授業を行うことに苦労しました。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

英語に対して苦手意識を持つ生徒が多い中で、どのように英語の魅力を伝えらせるか、そして実際に英語を使ってもらえるか注意点・工夫点等があれば教えて頂きたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

生徒の苦手意識を少しでも取り払うために「分かりやすい」授業を目指したいです。また、授業内で達成感を感じてもらえるよう日々試行錯誤して頑張ります。

丸岡高校　髙﨑　久美子　先生

①　教師を目指したきっかけ

海外生活経験があるため、英語が幼少期よりずっと好きでした。子ども好きだったことも重なり、英語教員を目指しました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

恩師の先生方がいかにスゴイ先生方だったのかが身にしみました。初心を忘れず、学ぶ姿勢を常に持ち、いろいろな指導法を取り入れていきたいです。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

他県での教員経験がありますが、福井県独自の英語授業の指導法に驚きと発見の毎日です。県全体での取り組み事業も多く、刺激ある毎日を過ごしています。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

授業で先生方がどのようなアクティブラーニング型授業を実践されているか、是非、教えて頂きたいです。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

生徒にグローバルな社会で活躍するための「使える」英語を身につけさせるため、授業研究に励みたいです。日々の授業においては、生徒が英語を使って活動する時間を少しずつ増やしていきたいです。

大野高校　山口　直孝　先生

①　教師を目指したきっかけ

山田洋次監督の『学校』シリーズが好きでした。特に第１作が好きです。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

生徒にではなく、自分に言い聞かせるように授業をしていました。（準備が不十分のときは、いまでもそんな感じになってしまいます。汗）

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

教科教育法（2001年度履修）では、『平泉・渡部論争』について読まされた覚えがあります。当時からしても四半世紀ほどが経過しており、「福井の議員だな～」程度にしか思わなかったのですが、いまに続く英語教育論争の発端がそこにあったと思うと、触れておいて良かったと思います。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

ふだんからお仕事をいっしょにさせていただきながら、いろんなことを教わっているように感じます。新しい環境に慣れるのに人一倍、時間のかかる人間です。数々のご迷惑をおかけしていくと思いますが、どうか末永くお付き合いいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

近年のマスコミを見ていると、いたずらに国や人びとのあいだの差異や優劣ばかりをとりあげる報道が多いように感じます。そうではなく、一見違うように見えるものたちとのあいだにも、"something in common" を見出すことに喜びを感じ、できるかぎり、その喜びを生徒たちとも分かち合っていきたいと思います。

若狭高校　澀（渋）谷　順子　先生

①　教師を目指したきっかけ

英語が好きで、かつ母校で思い出深い3年間を過ごしたので、高校の英語教員を目指しました。

②　初めて教壇に立った時の気持ち

とにかく緊張したはずですが、もう遠い昔になってしまいました。

③　学生時代に学んだことと教育現場（実践）でのギャップ・戸惑い・悩み

母校で勤務していますが、新しい環境なので分からないことばかりです。また教えてください。

④　先輩の先生方に尋ねてみたいこと

またいろいろと教えてください。

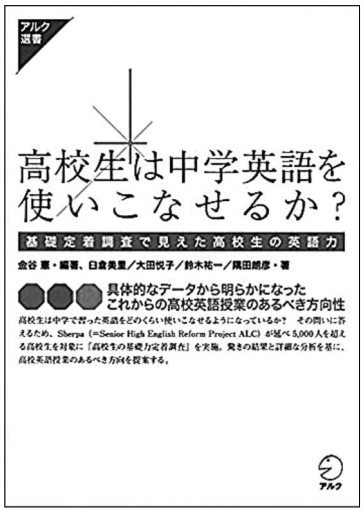
⑤　今後の授業に対する意気込み、あるいは教師としての抱負

昨年まで京都市で9年間教員をしていましたが、数年前に、ふと一生に一度は母校で勤務したいと思うようになり、昨年思い切って福井県移籍を試みました。母校勤務となり、とてもうれしいです。これからまたさまざまなことに challenge していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします！

BOOKSHELF Vol. 5

このコーナーでは、英語学、英米文学、英語教育、英語一般に関する書籍を毎回幅広く取り上げていきます。

今回は、英語研究会役員の方々よりお薦めの書籍を御紹介いただきました。



金谷 憲・編著
臼倉美里／大田悦子／鈴木祐一／隅田朗彦・著
高校生は中学英語を使いこなせるか？
基礎定着調査で見えた高校生の英語力
2017年／株式会社アルク／207pp.／2,376円
ISBN 978-4-7574-2871-3

中学校でずっと英語を教えてきた者として、教えてきた内容がどの程度身についているかということは当然知りたいところである。日頃の授業や校内の定期テスト、模擬テストである程度はつかんでいるつもりでも、より多くの人数を統計的に調査するとどのような結果であるのか、とても興味深いところである。

本書は、主に首都圏の高校１、２年生を中心に一部高校３年生も含めた、延べ5,300人に対し、中学英語がどの程度定着しているか調査したものであり、偏差値を基に上位、中位、下位ごとの分析も行っている。

調査内容は、①速読、②Listening、③Dictation、④和文英訳、⑤Picture Description（２種類）の５つである。この５つをもって中学英語の定着度を判断するのが妥当かどうかの議論は別にして、ともかく高校生に、中学校の教科書から作成された前述の５つの調査（問題）を受けさせて、その結果を分析してみるというのはとても興味がひかれる。巻末に実際の問題が載せられているので、どの程度のレベルの問題であるかもわかる。例えば、和文英訳は全10問で、一番難しいと思われるものでも「Ken に壊された時計は、贈り物でした。」程度であり、また dictation は全18問で、一番易しいと思われる文は「I clean my room every day.」で、最も難しいと思われるのは「After my son came home, I cooked a special dinner.」である。

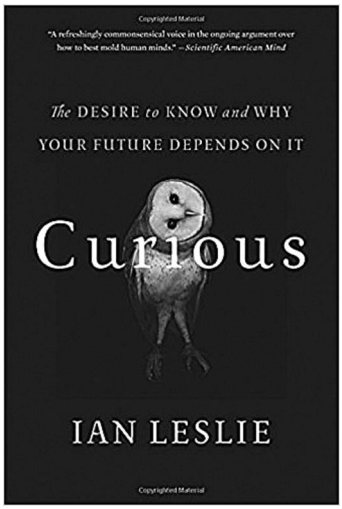
調査の結果は、なかなか厳しく惨憺たるものである。詳しい結果や分析については、本書を読んでいただきたいが、例えば、和文英訳では上に示した文の正答率は11.2%、dictation では、上に示した易しい文で81.6%、難しい文では0.6%だったのである。調査に使われた英語はすべて中学校の教科書、教材であり、それを高校生に実施したにもかかわらず、定着度は極めて低かったことがわ

かる。まあまあと言える部分を強いて挙げれば、picture description のようであるが、それも正確性を度外視すれば、という条件が入るとのことである。

結果の数値そのものよりも分析の方が大いに参考になる。それは、誤答例が多く示されており、それらから生徒たちがどのようなところでつまずく可能性があるのか、といったことが見えてくるからである。また、本書の最後で、この調査結果を受けて今後どのようにすべきかが提案されている。高校生への指導を前提にしているが、中学校でも是非意識していきたいことであり、その鍵は「スパイラル」ということになるのではないかと思う。

よく似たシリーズに、2015年の「中学英語いつ卒業？－中学生の主語把握プロセス－」、同じく「中学英文法で大学英語入試は８割解ける！－高校英語授業の最優先課題－」があるので、それらとあわせて読んでみるのもおもしろいと思う。

会　長　松田　新一（進明中学校長）



Leslie, Ian.（2015）著

Curious: The Desire to Know and Why Your Future Depends on It.

New York: Basic Books.

お恥ずかしい話ですが、最近私は自身の英語学習を怠っており、英語の運用能力は低下する一方だと感じています。そんな状況で、このテーマなら翻訳でなく、原書で読めるのではないかと一念発起して読んだペーパーバックが、Leslie, Ian.（2015）*Curious* : *The Desire to Know and Why Your Future Depends on It.* New York : Basic Books. です。

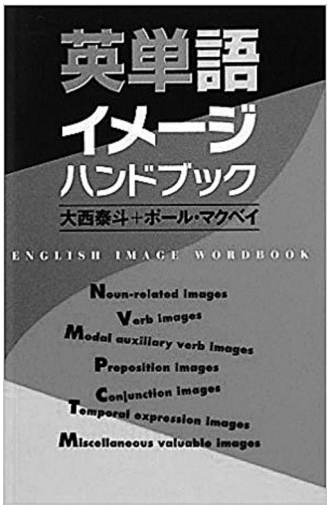
本書は何が好奇心を育み、何が好奇心を消し去るのかを考察し、解明しようとするものです。特に Chapter 7 : Importance of Knowing は我々教師が「新しい学力」について考えるのにとても参考になると感じました。現在、好奇心主導の教育がはやっており、進歩主義的教育観と関連する用語の「学習スキル」－learning skills（sometimes called higher-order skills, thinking skills, or, more recently, twenty-first-century skills）－が重視され、その支持者たちは、子どもたちに社会に出るための準備をいかにさせるかに関心があるそうです。特定の科目についての特定の知識を教えるよりも、創造性、問題解決能力、批判的思考力、好奇心といった抽象的スキルに焦点を当てるべきだと信じられています。これは、新学習指導要領で強調される「主体的・対話的で深い学び」を通して目指される資質・能力と同じではないでしょうか。

しかし、本書では学習に関する３つの誤解として、1. Children Don't Need Teachers to Instruct Them　2. Facts Kill Creativity　3. Schools Should Teach Thinking Skills Instead of Knowledge を挙げています。その上で、学習スキルのまさに土台になるのが記憶された知識であり、特に長期記憶が知性、洞察力、創造力の源だと断定しています。進歩主義的教育実践は社会階層を固定化する傾向もあると警鐘を鳴らし、背景知識を無くてはならないがあるのがあたりまえと思われる酸素にたとえて、“The flame of curiosity doesn't burn in a vacuum.”（好奇心の炎は真空では燃えない）とその重要性を強調しています。

こうした知識という「伝統的な学力」を再評価している教育学者に斎藤孝氏がいますが、彼は著書『新しい学力』（2016岩波新書）の中で、「発想力や創造力は知識という土壌に育つ植物であるともいえる。発想とは、知識と経験に基づいてあらたに組み合わせを考えていくことだからだ」とたとえています。どちらのたとえが上手かは差し置いて、同じようなことを主張しているので、どうも Ian Leslie の著作を読んで、影響を受けているのではないかと勘ぐりたくなります。

Curious では、「伝統的な学力」vs.「新しい学力」を考える上で説得力ある主張が展開されており、特に教師にとっては読む価値の高い本だと思い推薦させていただきます。

副会長　勝木　博一（嶺南東特別支援学校校長）



大西泰斗、ポール・マクベイ　著

英単語イメージハンドブック

2008年／青灯社／256pp.／1,944円／ISBN 978-4862280251

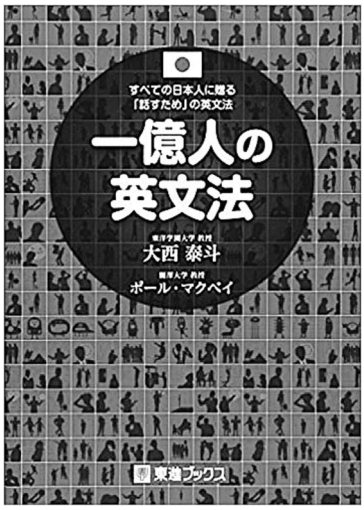
BOOKSHELF の原稿依頼は１回こっきりだと勝手に決め付けていたので、間もあけずに２回目があるのだと知り、一気に慎重さを失っております。

大西泰斗氏の本との出合いは、これも例の英文法原理主義者からの紹介でした。英文法や英単語をイメージで説明する内容に強く興味を引かれ、以降、大西泰斗の名前を見つけるたび手当たり次第に購入した時期がありました。高校英語弁論５０回大会で記念講演を依頼した際、交渉メールや講演後の会食を楽しくさせていただき、テレビのイメージ通り気さくな人柄にますますファンになりました。私の手元には直筆サインをいただいた本が残っています。

自慢話はさておき、「英単語イメージハンドブック」は大西氏の著書「ネイティブスピーカー…」シリーズの語彙に関するダイジェスト本です。英単語が「日本語訳」ではなく「感覚」と結びつくように説明がなされています。例えば“may の基本イメージは「開かれたドア」…閉ざされていないこと。そこから「許可」、「可能性」という意味が生れてきます。”“同じ「いくつか」でも、some は「ぼんやりではあるんだけど何かある」です。several は１つ１つがより明確に意識されています。例）I hear there are *some* good Jazz clubs in Tokyo.－Absolutely, I can recommend *several* excellent places.”などなどです。丁寧な解説とイラスト、例文が盛り込まれ、それぞれの語の「感覚」が読者の脳に植えつけられていきます。

私を代表とする、経験的学習量の乏しい、つまり input, output の乏しい、さらに簡単に言えば「努力不足」の英語学習者が、より効率的に語彙感覚を内在化するのに相応しい内容です。

企画部長　西口　佳光　（丹生高等学校）



大西泰斗、ポール・マクベイ　著

すべての日本人に贈る「話すため」の英文法　一億人の英文法

2011年／東進ブックス／682pp.／1,944円
ISBN 978-4890855278

ご存じの方も多いとは思いますが、著者は全国各地で講演を行っておられる言語学者・大西泰斗氏です。大西氏がイギリスの言語学者で英語教育者である、ポール・クリス・マクベイ氏とともに執筆されたものです。大西氏はほかにも英文法や英会話に関する書物を多数執筆されています。お二人ではこのほか『ネイティブスピーカーシリーズ』なども出版されています。

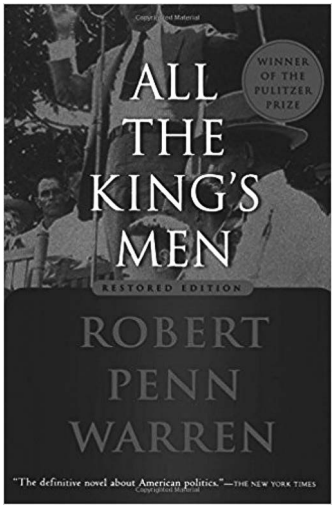
私自身も以前、大西先生の講演を聴かせていただきました。けして飽きることのない引き込まれるご講演だったことを覚えています。そのときに紹介いただいた１冊です。表現やイラスト、英語の細かなニュアンスまで非常にわかりやすく、すーっと自分の中に入っていくものです。英文法の説明に困ったときには何度も参考にさせていただきました。

①「話せる英語」を目的とした実用的な文法書
②英語のシステムを最も「カンタン」に解説
③ネイティブスピーカーの「意識」を詳しく解説
④高校生から社会人まですべての人が読者対象

これらの特徴を備えた、英文法書のイメージを覆すような１冊だと思います。そして、誰もが実用的に楽しみながら英文法を身につけることができます。ぜひご一読ください。

放送テスト副部長　野﨑　恵美（社中学校）

トランプ時代に読むべき３冊



Warren, Robert Penn

All the King's Men

1946年／MARINER／642pp.／$16.99／ISBN: 978-0156012959

かつてヒューイ・ロング（1893-1935）という政治家が居た。1930年代、ロングはポピュリズムの誹りを受ける一方で、労働者の雇用を拡大して熱狂的な支持を集め、この威勢をかって大統領を目指したが、その座に就く前に暗殺された元ルイジアナ州知事である。

著者ロバート・ペン・ウォーレンはこのロングをモデルにして、権力と金にものを言わせてのし上がる政治家ウィリィ・スタークを主人公として創造した。物語は、スタークの辣腕秘書として様々な闇の仕事もこなしていく元新聞記者ジャック・バードンの視点で語られていく。

当初ウィリィは善意と使命感に溢れる朴訥な田舎者で、とにかく演説が下手糞だったので、ジャックからこう罵られる：“Hell, make'em cry, or make'em laugh, make'em think you're their weak and erring pal, or make'em think you're God-a-Mighty. Or make'em mad. Even mad at you. Just stir'em up, it doesn't matter how or why, and they'll love you and come back for more... [I]t's up to you to give'em something to stir'em up and make'em feel alive again. Just for half an hour. That's what they come for. Tell'em anything. But for Sweet Jesus' sake don't try to improve their minds.”（Chapter 2 pp. 102）。

そんなウィリィが一躍注目を集めたのは、ある候補者が自分の当選を確実なものにするため、対抗馬の票を分散させるべく密かにウィリィを当て馬的に立候補させた事実を、演説中に突然支持者に暴露したことによってである：“He（=Willie）looked in his heart and thought he might try to change things. In all humility he thought how he might try. He was just a human, country boy, who believed like we have always believed back here in the hills that even the plainest, poorest fellow can be Governor if his fellow citizens find he has got the stuff and the character for the job.”（Chapter 2 pp. 129）。そしてこれ以降、ウィリィは扇情的演説によって熱狂的支持を集めるようになる（“Listen to me, you hicks. Listen here and lift up your eyes from the rear end of a mule seen over the plow-handle bar, and look on the God's blessed and unflyblown truth. If you've got the brain of a sap-sucker left and can recognize the truth when you see it. This is the truth : you are a hick and nobody ever helped a hick but the hick himself. Up there in town they won't help you. It is up to you and God and God helps those who help themselves!”（Chapter 2 pp. 133）

ウィリィは州知事に就任すると、世界最高レベルの病院を建設することを自分の使命と見做し、

その夢の実現に邁進する。しかしその目的完遂の為には、ライバルを買収したり、関係者の身内と寝たり、彼を敵対視する人物の過去を暴き出したりと、手段を択ばないマキャヴェリストと化してしまう。新病院の院長にと三顧の礼で迎えたアダム・スタントン――語り手ジャックの幼馴染――に向かって、ウィリィは己の信念をこう開陳する：

“Well, you can't inherit that(=goodness) from anybody. You got to make it, Doc. If you want it. And you got to make it out of badness. Badness. And you know why Doc? ... Because there isn't anything else to make it out of.” Then, sinking back into the wreck, he asked, softly : “Did you know that, Doc?”

Adam didn't say a word.

Then the Boss asked, softer still, almost whispering : “Did you know that, Doc?”

Adam wet his lips and said : “There is one question I should like to ask you. It is this. If, as you say, there is only the bad to start with, and the good must be made from the bad, then how do you ever know what the good is ? How do you even recognize the good? Assuming you have made it from the bad. Answer me that.”

“Easy, Doc, easy,” the Boss said.

“Well, answer it.”

“You just make it up as you go along.”

“Make up what?”

“The good,” the Boss said. “What the hell else are we talking about. Good with a capital *G*.”（Chapter 5 pp. 359-360）

作品構造としては一方の極にマキャヴェリストであるウィリィ・スタークを、その対極に潔癖症で高邁な理念を抱くアダム・スタントンを配し、その仲介役的存在として――自ら懐疑論的観念論者と認ずる――ジャック・バーデンを置く。語り手ジャックは、アダムの人柄について彼の妹アン――自分の恋人でもある――にこう語る：“I am a student of history, don't you remember? And what we students of history always learn is that the human being is a very complicated contraption and that they are not good or bad but are good-and-bad and the good comes out of bad and the bad out of good, and the devil take the hindmost. But Adam, he is a scientist, and everything is tidy for him, and one molecule of oxygen always behaves the same way when it gets around two molecules of hydrogen, and a thing is always what it is, and so when Adam the romantic makes a picture of the world in his head, it is just like the picture of the world Adam the scientist works with. All tidy. All neat. The molecule of good always behaves the same way. The molecule of bad always behaves the same way.”（Chapter 5 pp. 347）。この言葉からも明らかなように、プラグマティストであるジャックは、アダムの高潔な人となりをこよなく愛すると同時に、ウィリィの「悪から善を創り出す」政治哲学の実践性と有効性を理解しており――この辺りは、昨今の田中角栄再評価を筆者はちょっと連想したりもする――この小説がウィリィの物語である以上にジャックの物語であることを読者は認識させられる。

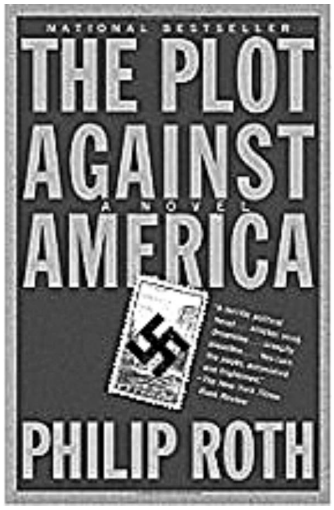
この後ウィリィとアダムとジャックは、三者三様の大いなる悲劇に巻き込まれ、破局の後にジャックはウィリィのことをこう回顧する：

I must believe that Willie Talos was a great man. What happened to his greatness is not the

question. Perhaps he spilled it on the ground the way you spill a liquid when the bottle breaks. Perhaps he piled up his greatness and burnt it in one great blaze in the dark like a bonfire and then there wasn't anything but dark and the embers winking. Perhaps he could not tell his greatness from ungreatness and so mixed them together that was adulterated was lost. But he had it. I must believe that.（Chapter 9 pp. 593）。

米文学好きの人なら、この一節からフィッツジェラルド *The Great Gatsby* の掉尾でニックが語る green light”を連想したかもしれないが、権力欲旺盛で平気で黒を白に覆し、女にはだらしなく、目的のためには手段を選ばないウィリィ・スタークが保持してきた“greatness”および“goodness out of badness”という人生哲学は、ジャックのみならず作品が発表されて70年が経過した現在でも、不思議な魅力で人を惹きつける。

本書はプロットだけ辿ると、フランク・キャプラの映画を反転したような、一種のピカレスク・ロマン的作品とも思われるが、作品の深層には形而上学的思索が脈打っていて、ピューリッツアー賞受賞も当然とうなづける傑作である。ウォーレンの文体は観念的で象徴的比喩を重層的に積み上げ、時には荘重晦渋過ぎて読み辛かったり、また神や救済を善悪二元論的に論じたりして相当骨が折れる大作であるが、読み終えた時の感銘の深さと大きさと荘厳さはちょっと比類が無い。



Roth, Philip.

The Plot Against America

2004年／VINTAGE／391pp.／$7.99／ISBN：978-1400096442

一言で言えば米文学界の大御所フィリップ・ロスが取り組んだ歴史改変小説であり、この場合の「仮定」は、「もしも、1940年にヒトラーの友人で反ユダヤ主義者チャールズ・リンドバーグが大統領に就任していたら……」である。1927年にニューヨーク・パリ間大西洋単独無着陸飛行を成功させ、一躍国民的英雄となったリンドバーグは、自らの操縦する飛行機で全米を遊説して回り大衆の熱狂的支持を集めると、三期目を目指すローズヴェルトを簡単に打ち負かしてしまう。いざ大統領の座を射止めると、若者の命を守るという名目で英国やソ連がドイツと行っている戦争に米国を参戦させず、ナチスを間接的に支援する。そればかりか、米国を戦争に追いやろうとしているのはメディアを支配するユダヤ人であると、国民がユダヤ人差別を行う風潮を自ら煽る。結果、国中が人種差別の狂気に蝕まれ、各地でユダヤ人排斥の暴動と虐殺が始まる――。

本書は、大局から俯瞰で見渡す大河ドラマ風の作りをせず、著者の分身と思しきフィリップ少年の目で歴史の流れを追っていく（言い換えれば、少年の実体験および少年が耳にした情報以外は記

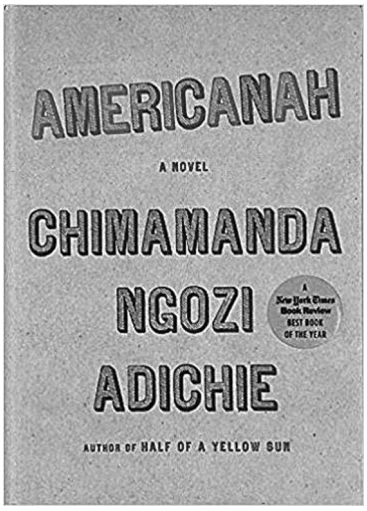
されていない)。その結果、ニュージャージー州ニューアークのユダヤ人街が、じわじわと変貌していく（させられる）過程のディテールが、強烈なリアリティを持ってひたひたと読む者に恐怖を与える。

“Chapter 6　May 1942-June 1942 Their Country”で、以前からカナダへ逃げることを主張してきた主人公の母と、断固この街に残ると言い続けてきた父はこう激論する：

> “No,” he replied, “not Canada again!” as though Canada were the name of the disease insidiously debilitating us all. “I don't want to hear it. Canada,” he told her firmly, “is not a solution.” “It's the *only* solution,” she pleaded. “I am not running away!” he shouted, startling everyone. “This is our country!” “No,” my mother said sadly, “not anymore. It's Lindbergh's. It's the goyim's. It's their country,” she said, and her breaking voice and the shocking words and the nightmare immediacy of what was mercilessly real forced my father, in the prime of his manhood, fit, focused, and undiscourageable as any forty-one-year-old could possibly be, to see himself with mortifying clarity : a devoted father of titanic energy no more capable of protecting his family from harm than was Mr. Wishnow hanging dead in the closet.（pp.226）

作家の中島京子氏は、「小説は〈史実〉と個人的な〈体験〉、過去のある時点から見れば〈予測〉に近いような〈想像〉を縫い目も残さず繋ぎあわせて、〈ありえたかもしれないアメリカ〉を出現させる」（毎日新聞2014年9月14日）と評しておられるが、徐々にアメリカが崩壊していく様を淡々と描いていく過程には、戦慄の念を禁じ得ない。もう一箇所中島氏の評を引用すると、「〈ありえたかもしれない〉過去は、〈ありえるかもしれない〉現在や未来と地続きだ。自分（たち）と異なると思われる人々を敵視し排除しようとする考え方は、残念ながら、つねに私たちのそばにある。この小説はそうしたものの怖さを、皮膚感覚的なリアリティでダイレクトに伝えてくる」。

ヘイトスピーチが公然と行われ、一国の最高権力者が根も葉もないデマを平然と SNS で垂れ流している今、この小説で描かれる恐怖は、決して対岸の火事ではない。



Adichie, Chimamanda Ngozi.
Americanah
2013年／KNOPF／479pp.／$28.95／ISBN：978-0307271082

ナイジェリアの作家チママンダ・ンゴズィ・アディーチェが2013年に発表した大作で、全米批評家協会賞を受賞した。

主人公イフェメルはナイジェリア出身で、アメリカに渡って13年の歳月が流れた。意を決して帰

国することにした彼女は、ヘアサロンで髪を結ってもらいながら、その間ナイジェリアで過ごした青春時代、渡米後の就労の困難、華麗な恋愛遍歴、人種問題を歯に衣着せぬ口調で論ずる私的ブログ（Understanding America for the Non-American Black）が大人気を博したこと、オバマ新大統領誕生が引き起こした熱狂等々の出来事を回顧していく。

「アメリカーナ」とは“アメリカかぶれ”といった意味合いで、世界各国から「約束の地」を求めてやってきた異邦人――とりわけ有色人種、中でも特に「黒人」――が、アメリカに暮らすようになって初めて「非白人」である自分を意識させられ、必死に同化しようとしたり、「非白人」の階層の中で自分の差異化を図ろうとする姿を象徴・揶揄する著者の意図が込められている。

例えば、バラク・オバマ氏が大統領選挙民主党候補に選出された翌日に行われたパーティに出席したイフェメルは、“Obama will end racism in this country.”と発言した白人男性に対しこう激しくくってかかる：

> “The only reason you say that race was not an issue is because you wish it was not. We all wish it was not. But it's a lie. I came from a country where race was not an issue; I did not think of myself as black and I only became black when I came to America. When you are black in America and you fall in love with a white person, race doesn't matter when you're alone together because it's just you and your love. But the minute you step outside, race matters. But we don't talk about it. We don't even tell our white partners the small things that piss us off and the things we wish they understood better, because we're worried they will say we're overreacting, or we're being too sensitive. And we don't want them to say, Look how far we've come, just forty years ago it would have been illegal for us to even be a couple blah blah blah, because you know what we're thinking when they say that? We're thinking why the fuck should it ever have been illegal anyway? But we don't say any of this stuff. We let it pile up inside our heads and when we come to nice liberal dinners like this, we say that race doesn't matter because that's what we're supposed to say, to keep our nice liberal friends comfortable. It's true. I speak from experience.”（Chapter 31, pp.292-293）

こう紹介すると、何やら硬派な社会小説のように思えるかもしれないが、実はイフェメルの波乱万丈の物語を盛る器は、「大恋愛小説」である。高校時代の恋人オビンゼと将来を誓い合うものの、彼はアメリカへのビザ申請が却下された後イギリスに不法滞在し、結局ナイジェリアに強制送還される。“長年音信不通になっていた二人の恋愛顛末は如何に？”を核として、大部な小説を飽きさせずに引っ張る筆致は実に力強い。

ユーモアと笑いをたっぷり交えながら恋の行方をディテール豊かに追いかけると同時に、現代アメリカに生きる人々を冷静かつ客観的に見つめて分析する視点が絶妙のバランスを保っている点が、この小説を皮相で浅薄な風俗小説とは異なる次元に高めている。筆者は、Zadie Smith *White Teeth* や Jhumpa Lahiri *The Namesake* をちょっと連想したが、アメリカとアフリカを超えた21世紀越境文学の新たな傑作として大いに推奨したい。

広報部長　稲葉　芳明（大野高校）

岩崎賞受賞者およびタイトル一覧

第１回（昭和５７年度）
富士根　秀　雄（大野高等学校）　“EXPRESS YOURSELF SERIES”

第２回（昭和５８年度）
松　田　通　彦（若狭高等学校）　「言語活動を中心にした英語Ⅱ指導の一試案」

第３回（昭和５９年度）
小　林　　誠（藤島高等学校）　「生き生きした英語授業実践のための一試論」

第４回（昭和６０年度）
堀　　治　市（武生高等学校）　「自由英作文　第２集」

第５回（昭和６１年度）
加　藤　英　和（丹南高等学校）　「英語の語法研究覚書（５）」

第６回（昭和６２年度）
大野高等学校英語科
「英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語ⅢＢにおける英文音読についての研究」
内　藤　　徹（丹南高等学校）
“A Study on the Correlation between Listening and Reading”

第７回（昭和６３年度）
十　郎　壽　夫（三国高等学校）
「西むく侍　教室で伝えたい「比較文化」の話あれこれ」

第８回（平成元年度）
高　島　嘉　子（高志高等学校）　“A Study of Tense”

第９回（平成２年度）　　応募作なし

第10回（平成３年度）
片　野　正　人（丹生高等学校）　“ELLIPSIS PHENOMENA IN THE ENGLISH”

第11回（平成４年度）　　該当作なし

第12回（平成５年度）
内　藤　　徹（鯖江高等学校）　「STRUCTURE SHEET の試みとその効果」

第13回（平成６年度）　　応募作なし

第14回（平成７年度）　　応募作なし

第15回（平成８年度）

芝　　和　身（敦賀気比高等学校）

“Motivational Strategies For the Foreign Language Classroom”

第16回（平成９年度）

田　渕　宏　明（小浜水産高校）　「内言を豊かにする言語活動の試み」

第17回（平成10年度）

丸岡高等学校英語科

“A Study of Systematic and Continuous Team-Teaching for Developing Students' Communicative Competence Writing-Centered Team-teaching”

第18回（平成11年度）　　該当作なし

第19回（平成12年度）

稲　葉　芳　明（大野高等学校）　「生徒に読ませたい12篇の歌（詩）」

第20回（平成13年度）

八　田　秀　樹（武生第六中学校）

「実践的コミュニケーション能力の向上をめざした授業づくり」

第21回（平成14年度）　　該当作なし

第22回（平成15年度）　　該当作なし

第23回（平成16年度）

山　田　晴　美（盲学校）

“Evaluating Student Communicative Abilities in the 'Oral communication I' & 'Oral Communication II' Subjects in Japanese Local High Schools: Some Suggestion for improvement”

第24回（平成17年度）　　応募作なし

第25回（平成18年度）

今　川　佳　紀（福井商業高等学校）

“Effective Ways of Enlarging Opportunities to Learn Communicative English through information and communication technology”

第26回（平成19年度）　　該当作なし

第27回（平成20年度）　　該当作なし

第28回（平成21年度）

稲　葉　芳　明（金津高等学校）

「幻影師ミルハウザー　～*Millhauser the Illusionist*～」

第29回（平成22年度）　　応募作なし

第30回（平成23年度）　　応募作なし

第31回（平成24年度）　　応募作なし

第32回（平成25年度）　　該当作なし

第33回（平成26年度）　　応募作なし

第34回（平成27年度）　　応募作なし

第35回（平成28年度）

稲　葉　芳　明（大野高等学校）

「The shop-soiled Galahad ～フィリップ・マーロウ：陋巷を行く、陋劣でない男～」

三　仙　真　也（藤島高等学校）

「英語ディベートの指導を通じた英語運用力と論理的思考力の育成」

第36回岩崎賞論文募集要項

下記の要領で、第36回岩崎賞論文を募集しております。奮ってご応募下さい。

１）内　　容　　①　英語教育に関する研究および実践記録

②　英語学・英米文学に関する研究

③　英語一般に関する研究

※研究発表校指定等で発表したものをまとめなおして応募するのも可。

和文の場合は横書きで、400字詰め原稿用紙120枚程度、ワープロ使用の場合は１ページ44字×36行で、30ページ程度を最大とする。英文の場合はタイプ（ダブルスペース）で40枚程度（１枚65～66ストローク×25行）までとする。

２）締　　切　　平成２９年１１月３０日（木）

３）送 り 先　　〒910-0021　福井市乾徳４－８－１９

福井県立福井商業高等学校内

福井県英語研究会事務局　宛

英研総会講演者一覧

平成２９年　６月　９日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「英語落語の授業への活用」
　講　師：　大　島　希巳江　氏　（神奈川大学教授）

平成２８年　６月１０日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「CAN-DO による授業改革」
　講　師：　阿　野　幸　一　氏　（文教大学教授）

平成２７年　６月１０日（水）　福井県国際交流会館
　演　題：　「高校英語教育と大学入試はどう変わるか」
　講　師：　吉　田　研　作　氏　（上智大学特任教授）

平成２６年　６月１１日（水）　福井県国際交流会館
　演　題：　「『英語の福井』のブランド構築に向けて」
　講　師：　松　本　　茂　氏　（立教大学教授）

平成２５年　６月１４日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「グローバル時代の英語教育」
　講　師：　岡　　秀　夫　氏　（目白大学教授）

平成２４年　６月１５日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「変わりゆく英語―変化に対応する英語教育のために」
　講　師：　八　木　克　正　氏　（関西学院大学教授）

平成２３年　６月１７日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「万能主義的英語教育のすすめ」
　講　師：　斎　藤　兆　史　氏　（東京大学教授）

平成２２年　６月１７日（木）　福井県国際交流会館
　演　題：　「コーパスからわかる英語語彙指導のポイント」
　講　師：　投　野　由紀夫　氏　（東京外国語大学教授）

平成２１年　６月１８日（木）　福井県国際交流会館
　演　題：　「〈英語を英語で教える〉とはどういうことなのか」
　講　師：　松　本　　茂　氏　（立教大学教授）

平成２０年　６月２０日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「英語授業に関する反省（普段感じていること）」
　講　師：　竹　中　広　信　氏　（駿台予備学校講師）

平成１９年　６月１５日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「日本語らしさ、英語らしさ」
　講　師：　池　上　嘉　彦　氏　（昭和女子大学教授）

平成１８年　６月１６日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「日本の英語教育の現状と課題」
　講　師：　和　田　　稔　氏　（明海大学外国語学部教授）

平成１７年　６月１７日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「アクション・リサーチでの授業改善」
　講　師：　佐　野　正　之　氏　（帝京大学文学部教育学科教授）

平成１６年　６月１８日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「英語が使える日本人の育成における英語教師の役割」
　講　師：　渡　邉　時　夫　氏　（清泉女学院大学教授）

平成１５年　６月２０日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「プレゼンテーション指導の進め方とその効用
　講　師：　酒　井　志　延　氏　（千葉商科大学商経学部助教授）

平成１４年　６月２１日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　“Global Education and EFL: Teaching for a Better World”
　講　師：　Mr. Kip A. Cates　（鳥取大学外国人教師）

平成１３年　６月２２日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　“P.E. in English, Math in English, Science in English”
　講　師：　Dr. Mike Bostwick　（加藤学園バイリンガル教育ディレクター）

平成１２年　６月１６日（金）　福井県国際交流会館
　演　題：　「ことばの世界とことばの教育－認知科学からの提言」
　講　師：　大　津　由紀雄　氏　（慶応大学教授）

平成１１年　６月１７日（木）　福井県国際交流会館
　演　題：　「コミュニケーション能力の育成と単語・文法指導」
　講　師：　阿　部　　一　氏　（獨協大学教授）

平成１０年　６月１５日（月）　福井県職員会館
　演　題　「英語教育でもっとやってほしいこと」
　講　師　金　谷　憲　氏　（東京学芸大学教授）

平成　９年　５月２３日（金）　福井県職員会館
　演　題　「これからの英語教育について」
　講　師　茨　山　良　夫　氏　（福井大学教授）

平成　８年　６月１４日（金）　福井県職員会館
　演　題　「川は流れる－大海原に－情報発信のライティング」
　講　師　藤　枝　宏　壽　氏　（福井医科大学教授）

平成　７年　６月９日（金）　福井市フェニックスプラザ
　演　題　“A PROFICIENCY-ORIENTED APPROACH TO WRITING”
　講　師　中　田　清　一　氏　（青山学院大学教授）

平成　６年　６月１０日（金）　福井商工会議所ビル
　演　題　「異文化間コミュニケーション：　アメリカの教壇からＮＨＫ英会話講師まで」
　講　師　小　川　邦　彦　氏　（山梨大学教授）

平成　５年　６月１８日（金）　福井市商工会館
　演　題　“Seventy Years of Oral Communication ”
　講　師　伊　村　元　道　氏　（玉川大学教授）

平成　４年　６月１９日（金）　福井市商工会館
　演　題　“Teaching English to Promote International Understanding”
　講　師　石　井　敏　氏　（大妻女子大学教授）

平成　３年　６月１４日（金）　福井市商工会館
　演　題　「異文化を読む－コミュニケーションの視点から－」
　講　師　岡　部　朗　一　氏　（南山大学教授）

平成　２年　６月１５日（金）　福井市商工会館
　演　題　「外国を読む」
　講　師　外　山　滋比古　氏　（昭和女子大学教授）

平成　元年　６月２３日（金）　福井市商工会館
　演　題　「英語教育に課せられた今日的課題－学習指導要領の改訂の視点から」
　講　師　小　池　生　夫　氏　（慶應義塾大学教授）

昭和６３年　６月１５日（金）　福井県民会館
演　題　“Team Teaching: A Theoretical Look and Its Application”
講　師　和　田　稔　氏　（文部省初等教育中等教育局中学校課程教科調査官）

昭和６２年　６月１２日（金）　福井県民会館
演　題　「今、英語教育に望まれるもの」
講　師　橋　本　光　郎　氏　（青山学院大学教授）

昭和６１年　６月７日（金）　福井県民会館
演　題　「英語教育と辞書」
講　師　小　島　義　郎　氏　（早稲田大学教授）

昭和６０年　６月４日（火）　労働福祉会館
演　題　“Trends and Problem in Japanese Education”
講　師　Carl.B.Becker 氏　（天理大学助教授）

昭和５９年　６月８日（金）　福井厚生年金会館
演　題　「　不　明　」
講　師　吉　田　研　作　氏　(上智大学)

昭和５８年　６月８日（金）　福井厚生年金会館
演　題　「英語の音について」
講　師　高　橋　敏　彦　氏　（国際教育交換協議会(CIEE)企画主任）

昭和５７年　６月８日（火）　福井市民福祉会館
演　題　「英語教育とは何だろう－横文字編集長の英語教育論」
講　師　巳　野　保嘉治　氏
（日本工業新聞論説委員・英文経済月刊誌 BUSINESS JAPAN 編集長）

昭和５６年　６月２日（火）　至民中学校、福井市農協社支所ホール
演　題　「英語を聞くこと、話すこと」
講　師　長　崎　玄　弥　氏

「会報」第76号 原稿募集

下記の要領で原稿を募集していますので、多数ご応募くださいますようお願いいたします。

記

１．原 稿 内 容　①英語教育に関する論考および実践記録

②英語学・英米文学に関する論考・エッセイ

③英語一般に関する論考・エッセイ

④私が薦める一冊（英語辞書、英語学習関連書、英米文学書等）

２．原 稿 締 切　平成２９年１２月２８日（木）

３．発 行 予 定　平成３０年３月

４．送　り　先　〒912－0085　大野市新庄10－28

福井県立大野高等学校　内

稲　葉　芳　明　宛

TEL（0779）66－3411

FAX（0779）66－4329

E-mail：　y-inaba-pw@ma.fukui-ed.jp

福井県英語研究会歴代役員一覧

（2006年～2017年）

		2006（H18）	2007（H19）	2008（H20）
会長		金牧　廣（勝山高）	澤本　啓一（敦賀工業高）	松田　通彦（高志高）
副会長		土田純一朗（森田中） 大下ひとみ（武生東高）	土田純一朗（森田中） 大下ひとみ（武生東高）	岡本　章（松陵中） 橋本　栄二（敦賀高）
企画部	部長	澤田　則義（大野高）	澤田　則義（大野高）	澤田　則義（大野高）
	副部長	斎藤　将親（大野東高）	広瀬　泰司（陽明中）	広瀬　泰司（陽明中）
放送テスト部	部長	尾形　俊弘（武生一中）	濱野　則子（鯖江高）	濱野　則子（鯖江高）
	副部長	濱野　則子（鯖江高） 森　一生（丹南高）	森　一生（丹南高） 髙松三七子（鯖江中）	森　一生（丹南高） 髙松三七子（東陽中）
広報部	部長	北川　一（高志高）	北川　一（高志高）	北川　一（高志高）
	副部長	笹木　英俊（大野高）	笹木　英俊（大野高）	笹木　英俊（大野高）
研究部	部長	山内　悟（勝山高）	竹本　俊穂（高志高）	竹本　俊穂（高志高）
	副部長	竹本　俊穂（高志高）	清水　慈昭（丹南高） 今川　佳紀（福井商業高）	清水　慈昭（丹南高） 今川　佳紀（福井商業高）
監事		三田村隆泰（武生商業高） 松田亜紀子（羽水高）	三田村隆泰（武生商業高） 鈴木　千文（武生高）	岩本　公信（武生商業高） 内藤　俊治（福井商業高）
教育庁		佐々木栄秀 水谷　善長	佐々木栄秀 水谷　善長	佐々木栄秀 尾形　俊弘
教育研究所		杉俣　佳弘	杉俣　佳弘	杉俣　佳弘
事務局長		山口　正純（丸岡高）	山口　正純（丸岡高）	馬谷　康照（鯖江高）
庶務		高倉　泰希（丸岡高）	高倉　泰希（丸岡高）	飯田　倫代（鯖江高）
会計		杉山　正晃（丸岡高）	杉山　正晃（丸岡高）	吉田　愛子（鯖江高）

		2009（H21）	2010（H22）	2011（H23）
会長		坂本　伸子（金　津　高）	坂本　伸子（金　津　高）	片野　正人（武生商業高 ）
副会長		山口　和代（武 生 三 中） 森下　秀樹（丸岡高城東分校）	馬場　朝子（川　西　中） 森下　秀樹（三　国　高）	馬場　朝子（足 羽 一 中） 森下　秀樹（三　国　高）
企画部	部長	澤田　則義（大　野　高）	澤田　則義（藤　島　高）	澤田　則義（藤　島　高）
	副部長	広瀬　泰司（陽　明　中）	広瀬　泰司（陽　明　中）	広瀬　泰司（陽　明　中）
放送テスト部	部長	濱野　則子（鯖　江　高）	森　一生（丹　南　高）	森　一生（丹　南　高）
	副部長	森　一生（丹　南　高） 髙松三七子（東　陽　中）	髙松三七子（東　陽　中） 高津　和幸（嶺 北 養 護）	髙松三七子（東　陽　中） 高津　和幸（嶺 北 養 護）
広報部	部長	笹木　英俊（大　野　高）	笹木　英俊（大　野　高）	笹木　英俊（大　野　高）
	副部長	島田　敏宏（三　国　高）	島田　敏宏（三　国　高）	島田　敏宏（三　国　高）
研究部	部長	清水　慈昭（丹　南　高）	清水　慈昭（丹　南　高）	清水　慈昭（丹　南　高）
	副部長	森本　浩司（武　生　高） 今川　佳紀（福井商業高）	森本　浩司（武　生　高） 酒井　睦夫（明　道　中）	森本　浩司（武 生 東 高） 酒井　睦夫（明　道　中）
監事		岩本　公信（武生商業高） 内藤　俊治（福井商業高）	岩本　公信（高　志　高） 内藤　俊治（教育研究所）	野村あゆみ（鯖　江　高） 宮西　芳弘（福井商業高）
教育庁		佐々木栄秀 尾形　俊弘	今川　佳紀 尾形　俊弘	竹本　俊穂 尾形　俊弘
教育研究所		山森　義弘	竹本　俊穂	磯野　和之
事務局長		杉俣　佳弘（鯖　江　高）	稲葉　芳明（金　津　高）	稲葉　芳明（金　津　高）
庶務		馬谷　康照（鯖　江　高）	高倉　泰希（金　津　高）	高倉　泰希（金　津　高）
会計		野村あゆみ（鯖　江　高）	石津　麻美（金　津　高）	石津　麻美（金　津　高） 矢尾百々衣（金　津　高）

		2012（H24）	2013（H25）	2014（H26）
会長		片野　正人（武生商業高 ）	片野　正人（武生商業高 ）	片野　正人（武　生　高）
副会長		岩﨑　紳二（福井大学付属中） 荒川　治和（羽　水　高）	岩﨑　紳二（福井大学付属中） 木下久仁雄（道　守　高）	松田　新一（進　明　中） 木下久仁雄（道　守　高）
企画部	部長	澤田　則義（藤　島　高）	澤田　則義（大　野　高）	澤田　則義（藤　島　高）
	副部長	広瀬　泰司（陽　明　中）	広瀬　泰司（開　成　中）	広瀬　泰司（開　成　中）
放送テスト部	部長	森　一生（丹　南　高）	森　一生（丹　南　高）	森　一生（丹　南　高）
	副部長	髙松三七子（東　陽　中） 高津　和幸（嶺 北 養 護）	髙松三七子（東　陽　中） 林　淳子（福井商業高）	髙松三七子（朝　日　中） 林　淳子（福井商業高）
広報部	部長	笹木　英俊（大　野　高）	笹木　英俊（藤　島　高）	笹木　英俊（藤　島　高）
	副部長	島田　敏宏（三　国　高）	島田　敏宏（三　国　高）	稲葉　芳明（金　津　高）
研究部	部長	森本　浩司（武 生 東 高）	森本　浩司（武 生 東 高）	森本　浩司（武 生 東 高）
	副部長	辻　智生（敦　賀　高） 酒井　睦夫（明　道　中）	辻　智生（敦　賀　高） 村　昭信（丸　岡　高）	村　昭信（金　津　高） 辻　智生（敦　賀　高）
監事		野村あゆみ（鯖　江　高） 荻野　哲央（道　守　高）	石津　麻美（福井東特別支援） 荻野　哲央（道　守　高）	荻野　哲央（道　守　高） 三田村弘美（丹　生　高）
教育庁		竹本　俊穂 尾形　俊弘	竹本　俊穂 西　健	竹本　俊穂 西　健
教育研究所		磯野　和之	磯野　和之	森　美穂
事務局長		鈴木　秀人（丹　生　高）	鈴木　秀人（丹　生　高）	藤田　裕彦（高　志　高）
庶務		吉田　充宏（丹　生　高）	吉田　充宏（丹　生　高）	上杉三陽子（高　志　高）
会計		木下久仁雄（丹　生　高） 三田村弘美（丹　生　高）	三田村弘美（丹　生　高）	西川　潤也（高　志　高） 山本　美好（高　志　高）

		2015（H27）	2016（H28）	2017（H29）
会長		片野　正人（武　生　高）	水戸守　寿（武 生 東 高）	松田　新一（進　明　中）
副会長		松田　新一（進　明　中） 田中　宏明（敦　賀　高）	松田　新一（進　明　中） 勝木　博一（嶺南東特別支援）	勝木　博一（嶺南東特別支援） 水谷　善長（武生第三中）
企画部	部長	澤田　則義（藤　島　高）	西口　佳光（丹　生　高）	西口　佳光（丹　生　高）
	副部長	広瀬　泰司（開　成　中）	広瀬　泰司（開　成　中）	山口　隆子（丹　生　高）
放送テスト部	部長	森　一生（武 生 東 高）	加藤　修（三　国　中）	加藤　修（三　国　中）
	副部長	林　淳子（福井商業高） 伊藤美智子（南越特別支援）	伊藤美智子（敦　賀　高） 渡邊衣咲子（松　陵　中）	伊藤美智子（敦　賀　高） 野崎　恵美（社　中）
広報部	部長	稲葉　芳明（大　野　高）	稲葉　芳明（大　野　高）	稲葉　芳明（大　野　高）
	副部長	笹木　英俊（藤　島　高）	笹木　英俊（藤　島　高）	鈴木　秀人（羽　水　高）
研究部	部長	辻　智生（敦　賀　高）	辻　智生（敦　賀　高）	辻　智生（敦　賀　高）
	副部長	村　昭信（金　津　高）	村　昭信（金　津　高）	村　昭信（金　津　高） 水木　毅（武 生 東 高）
監事		三田村弘美（丹　生　高） 北川　一（金　津　高）	三田村弘美（丹　生　高） 北川　一（金　津　高）	三田村弘美（丹　生　高） 北川　一（金　津　高）
教育庁		浅井　裕規 西　健	岩本　公信 上田外史彦	岩本　公信 上田外史彦
教育研究所		木下　弥	冨田　秀明	澤田　則義
事務局長		藤田　裕彦（高　志　高）	中村　珠美（福井商業高）	中村　珠美（福井商業高）
庶務		杉山　正晃（高　志　高）	渡辺さゆり（福井商業高）	伊藤　仁美（福井商業高）
会計		山本　美好（高　志　高） 髙島　理恵（高　志　高）	石田　洋志（福井商業高）	石田　洋志（福井商業高）